

【前回報告内容の再掲】市民活動センターと生涯学習施設の統合に向けた当初の方向性(3月23日時点)

○令和10年以降、随時、市民活動センターと生涯学習施設を統合することに向けて検討を進める。 → 第4次静岡市市民活動促進基本計画にどのように影響するか。

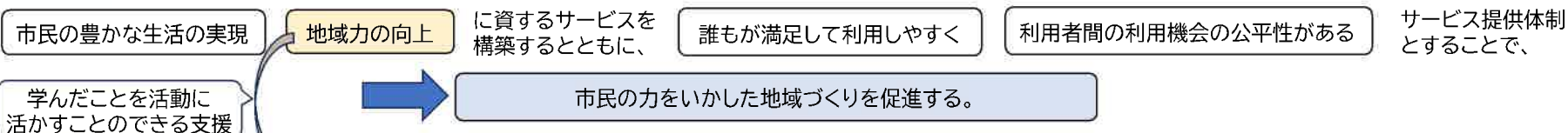
市民活動センターと生涯学習施設の統合に向けての検討

背景

- 静岡市は、これまではサービス内容や提供場所を個々の施設単位ごとにその設置目的に応じ、部分最適化を行いながら、利用者満足が得られるようサービス提供を続けてきた。
- その結果、例えば、現在、各施設の個々の利用者には良いサービスが提供されているものの、市全体で見ると、特定の地域の特定の利用者層にとっては(例えば年代層)、近くに施設があってサービスが充実している一方、サービスが受けられる場所が近くにない人がいるという状態が生じている。
- このように全体最適の視点では、サービス提供に関する公平性が保たれていないという問題、あるいは民間事業者等提供サービスとの重複、施設稼働率の低下、市民の多様なニーズへの対応が不十分、サービス提供の非効率性の問題、中学校の部活動の地域移行の課題など、複合的な問題が積み残されたままとなっている。

最適化

めざす姿



(2)地域力の向上(地域経済や社会を支える人材育成)

課題

- 学習機会の提供と市民活動の支援機能との連携が不足しており、学んだことを活かしたいという市民の希望に十分応えられていない。
- 市民活動センターが独立した施設であるため、センターの存在や役割を知らない市民には利用する機会がなく、若者や子育て世帯などといった、地域で暮らす様々な立場の市民との接点が限られている。
- 地域で活躍したい市民や団体と地域貢献に意欲のある企業をつなぎ、協働による地域課題解決の輪を広げていく機会や場の提供が不十分。

めざす姿の実現に向けた具体策(案)

市民活動センターと生涯学習施設を同一施設内に整備

これまで生涯学習施設とは別々に立地していた市民活動センターについて、同一の施設内に整備する。

○「番町市民活動センター」は、**葵区の生涯学習施設と共に整備**

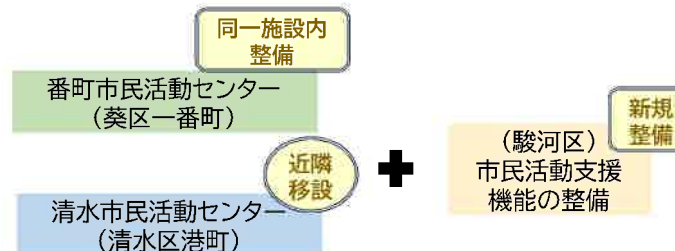
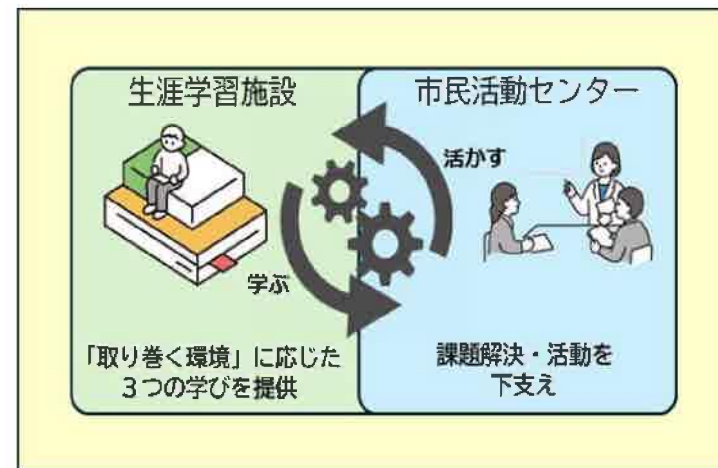
○「清水市民活動センター」は、**清水区の生涯学習施設の近隣に移設**

○加えて、**新たに駿河区の生涯学習施設の中に、市民活動支援機能を整備**

- 生涯学習施設の講座によって「地域活動力」を高めた市民に対して、活動力を活かすことのできる地域との仲介や活動計画に関する相談対応等、地域の課題を自ら発見し、実際に動き出すまでの伴走支援を、同じ施設内(あるいは近隣)に設置する市民活動センターで担い、学びから活動への一体的な支援を行う。
- 市民活動を支援する中で発見した地域特有の魅力や事情を踏まえて、地域力の向上につながる技術や知識、学びとなるテーマを研究し、生涯学習講座の企画内容に反映する。

統合後の市民活動センターでは、

- ⇒ ○ **多様な主体が集まる連携・協働の基盤を整備**
- **地域との関係を積極的に構築し、地域力の向上につなげる**



【見直した方向性】パブリックコメント結果を踏まえた方向性の修正(7月6日現在)

パブリックコメントの声(3月25日～4月24日)

総件数:564件

ハード(施設空間)

“市民活動は公益であることが重要であり、共益目的である生涯学習とは相容れないのではないのでしょうか”

“生涯学習との機能連携の方向性は理解できるが、『多様な市民活動が自由に行われる場』としての機能が損なわれないよう配慮が必要”

ソフト(支援機能)

“市民活動センターと生涯学習施設では『運営のノウハウ』が全く異なる。すべてをまとめて運営できる企業がいるとは思えない”

“生涯学習機能と市民活動支援機能が一体的に扱われることで、市民活動支援の専門性や拠点性が損なわれることのないようにしてほしい”

運用(貸室ルール)

“市民団体が活動の拠点をなくされ、活動が困難になる。”

“貸会議室の制限撤廃(全世代利用)は理解できるが、すべての利用者を同一条件で扱うのではなく実態に応じた配慮が必要”

今後の方向性(案)

集約化は見送り

見直し内容:
現時点では、生涯学習施設等の他施設との物理的な集約・複合化や新規整備は実施しません。
今後のアプローチ:
既存の施設(番町・清水)を維持しつつ、将来的なセンターの適正な配置や在り方について、社会情勢や市民活動の状況の変化を踏まえ検討していきます。

生涯学習との連携、協働促進の基盤を強化

見直し内容:
生涯学習講座を修了した人材が、地域活動へステップアップするための伴走支援や、多様な主体との協働基盤の整備を行います。
今後のアプローチ:
生涯学習講座自体への関与、アウトリーチによる活動の支援の強化案を令和9年度からの市民活動センターの事業内容に反映します。

誰もが使いやすいオープンな運用へ

見直し内容:
貸会議室等について「誰もが使える施設」への転換を図ります。
今後のアプローチ:
施設本来の目的である市民活動が阻害されないよう、「優先予約」を可能とする仕組みとします。(方法・時期は今後調整)

市民活動センターの機能強化(具体策)

現在の施設配置は当面の間維持しつつ、生涯学習との連携の深化や多様な主体との協働基盤の整備等を通じて、市民活動センターが提供するサービスを充実させ、地域力の向上につなげます。

- ・生涯学習との連携
「地域デザインカレッジ」などの「静岡シチズンカレッジこ・こ・に」の講座に市民活動センター職員が出向く機会を設け、受講中の学びや取組が講座終了後の地域活動につながるよう、活動内容の具体化、補助金・助成金制度の活用、先行団体等との関係づくりを支援します。
- ・相談業務の強化
地域貢献やまちづくりに関心を持つ市民に対して、活動の始め方、地域課題の整理、資金調達などの相談対応を行います。特に、「静岡シチズンカレッジこ・こ・に」の修了生に対しては、外部の専門家に相談できる「ここにわ相談」を行い、活動に対する具体的な助言を行います。
- ・協働事業の創出支援
市民活動センターが、市民活動団体を含む地域で活動する多様な主体の連携・協働の拠点となるよう、活動分野に応じたネットワークの構築、協働相手の募集・マッチング、関係者間の調整への伴走支援等の機能を強化し、協働事業の創出・継続を支援します。
- ・地域へ出向く
市民活動センター職員が、市民活動団体や自治会・企業・学校といった地域への訪問等を通じた調査研究を行い、地域に潜在する課題や活動ニーズを把握し、市民活動団体等の地域資源と連携して課題解決に向けた取組の具体化を支援します。

将来的な市民活動センターの取組イメージ



3月～4月にかけて実施したパブリックコメントでいただいた意見を参考に、案を修正中です。
この案について、近日中に改めてパブリックコメントを行う予定です。

静岡市内の市民活動団体の取組に関する 調査結果

令和8年3月

市民自治推進課

静岡市内の市民活動団体の取組に関する調査 概要

(市民自治推進課)

1 調査概要

(1) アンケート送付団体数

市民活動支援ポータルサイト「ここからネット」登録団体 1,198団体

(2) 有効対象団体等内訳

①有効対象団体 1,147団体 ②宛所不明による返送 35団体 ③解散団体 16団体

(3) 回答団体数 219団体 (回答率19.1%)

2 調査結果

別添集計表のとおり

3 調査結果について

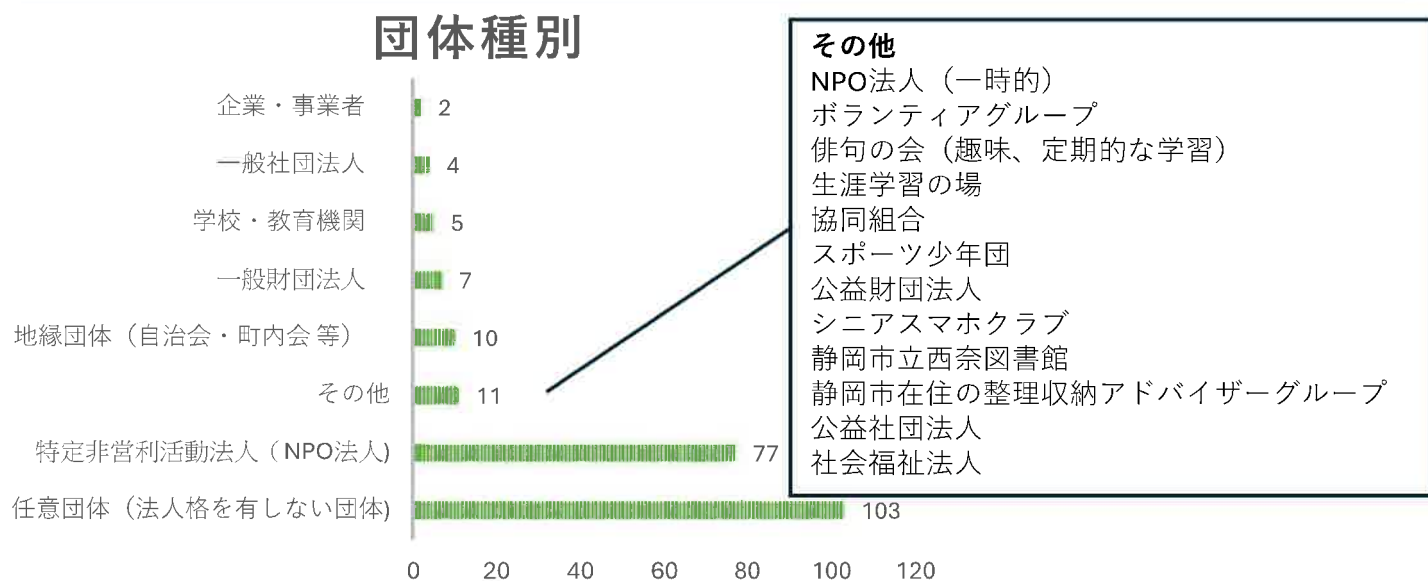
・市民活動団体の会員のうち最も多い年齢層は「60～69歳」及び「70～79歳」が高く、活動の担い手の高齢化がうかがえる。一方で、活動開始のきっかけとしては、「同じ関心を持つ仲間との出会い」や「地域課題・社会課題を解決したいという思いから」が多く、市民活動が地域課題の解決や社会参加の場として重要な役割を担っていることが分かる。

・市が実施する市民活動支援制度については、市民活動センターや市民活動ポータルサイト「ここからネット」「協働パイロット事業」の認知度が比較的高い一方で、「ふるさと応援寄附金等NPO等指定寄附事業」は認知度が低い傾向にあった。また、制度を知っていても利用していない理由として、「必要性を感じなかった」「利用方法が分からなかった」が多く挙げられている。

・他主体との協働については、現在協働を実施している団体が4割を超え、今後協働したいと考えている団体も約3割あることから、市民活動団体の協働に対する関心は高いことがうかがえる。一方で、協働していない理由としては、「人手や時間に余裕がない」が最も多く、担い手不足や運営体制の課題が協働の推進に影響していることが分かる。

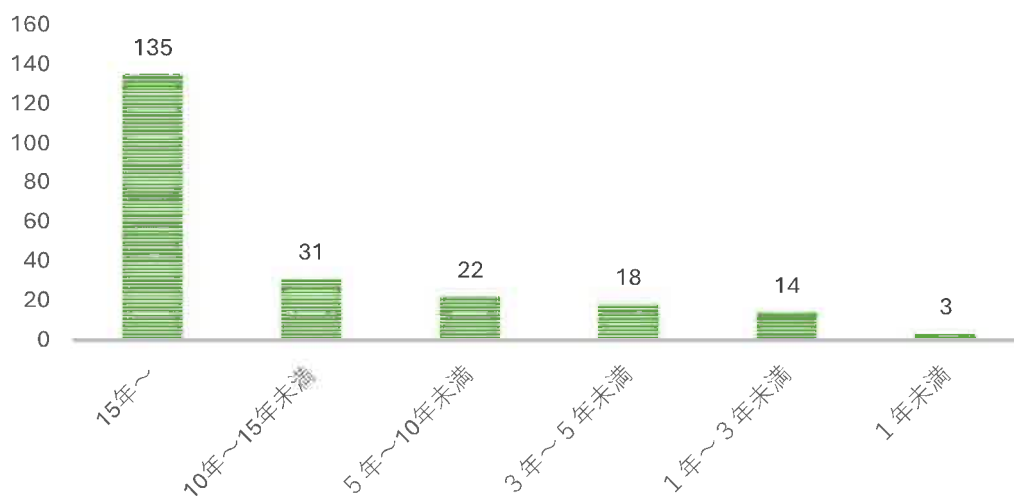
静岡市内の市民活動団体の取組に関する調査 集計表

問1 貴団体の団体種別について、該当するものを1つ選択してください。



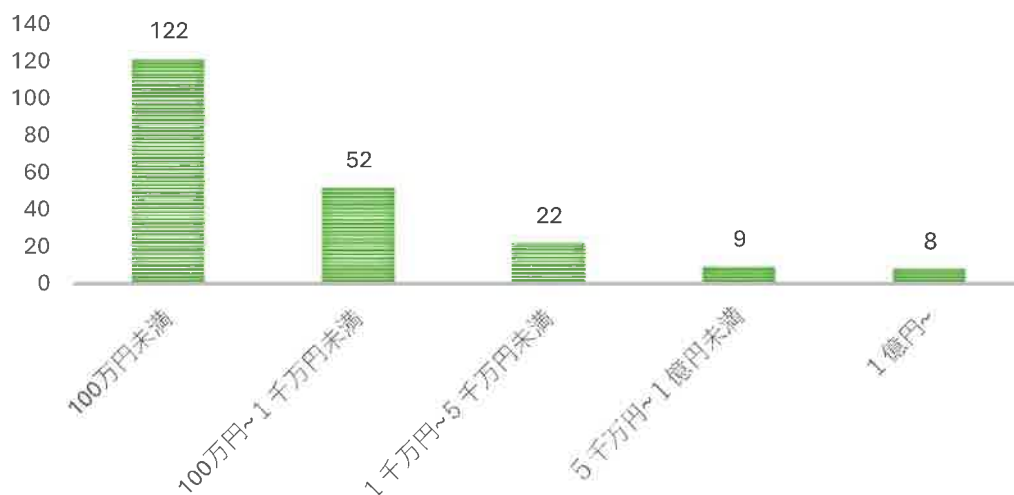
問2 貴団体の設立からの経過年数について、該当するものを1つ選択してください。

経過年数



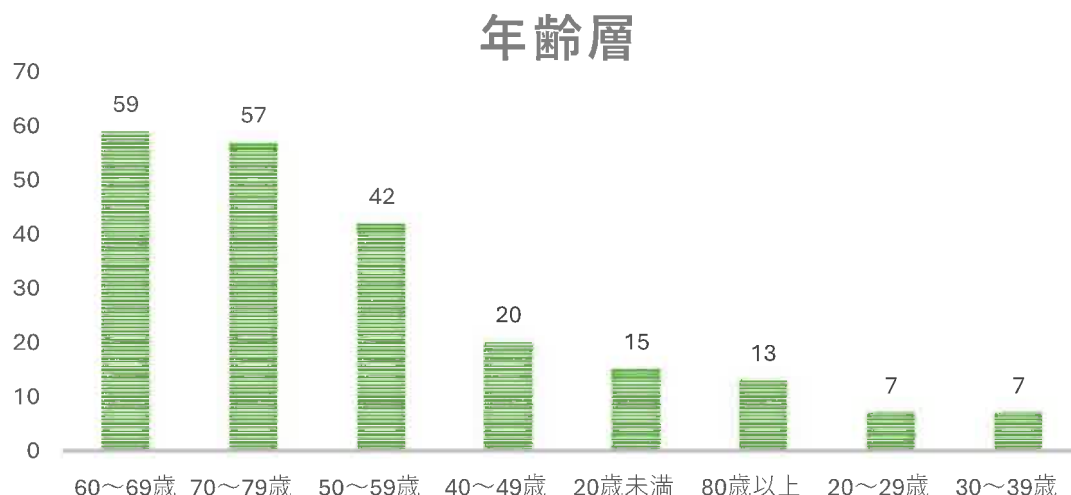
問3 貴団体の事業規模について、該当するものを1つ選択してください。

事業規模



静岡市内の市民活動団体の取組に関する調査 集計表

問4 貴団体の会員のうち、1番多い年齢層について、該当するものを1つ選択してください。



問5 貴団体が活動を開始したきっかけについて、該当するものをすべて選択してください。



その他

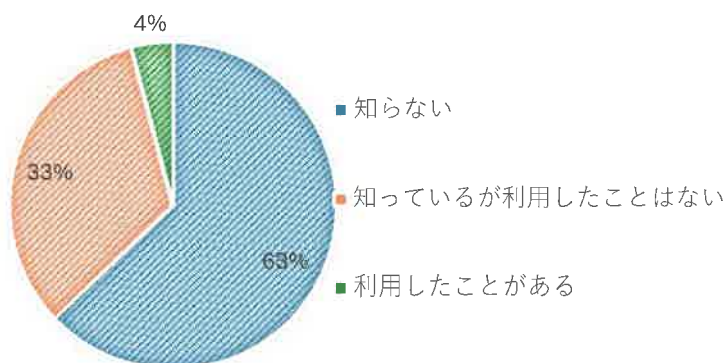
- ・市井の女性の生き様を記録しておくため。
- ・鮎餌釣りの伝達・普及の為。
- ・コミュニティに、本当のフィリピン人と文化を紹介し、広めていきたいと思っています。日本での生活について、知識を増やしたい。
- ・歌は元気な街づくり、元気な人づくり
- ・歴史的建造物の保存
- ・学童野球の振興
- ・病院がボランティア募集し団体ができた
- ・県立の自然史博物館が静岡県にも必要だと思ったので。
- ・町内会
- ・昭和40年代から活動してきており、きっかけの詳細は不明
- ・ゆとり教育と地域と子どもを中心にしたまちづくり

静岡市内の市民活動団体の取組に関する調査 集計表

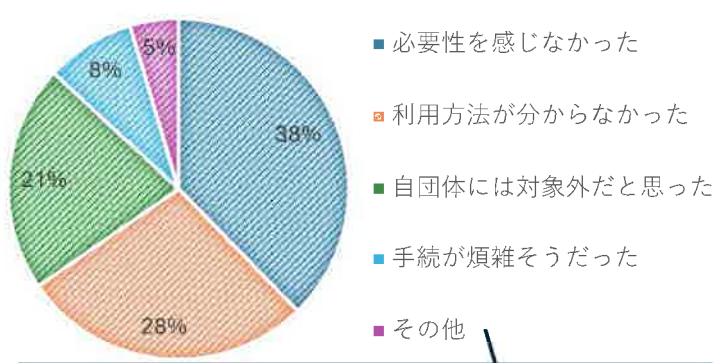
問6 以下の市民活動に関する施策・支援制度を知っていますか。また、利用したことがありますか。

問6-2 「知っているが利用したことはない」と回答した施策・支援制度について利用していない理由

① ふるさと応援寄附金等NPO等指定寄附事業

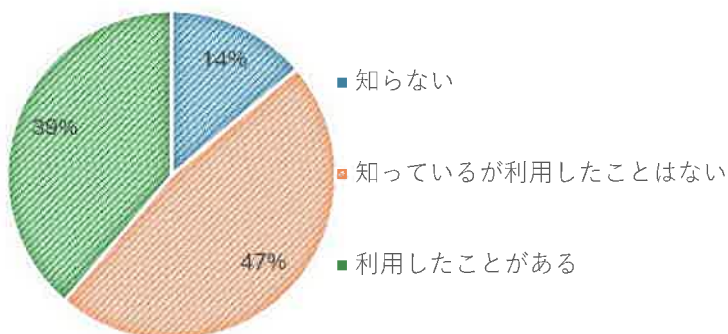


① ふるさと応援寄附金等NPO等指定寄附事業

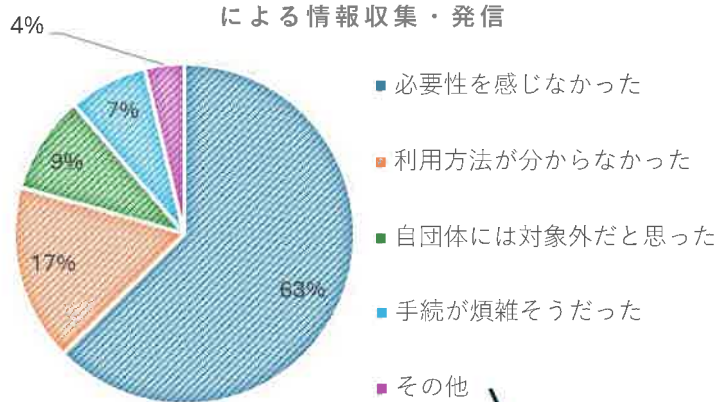


・寄付金や助成金等は色々制約があり本来やりたいことが対象でなかったりするから受けようとは思わない。
・小規模の事業形態のNPOにとって、ふるさと応援寄附金や協働パイロットはハードルが高すぎる。市のバックアップやメリット・デメリットの提示があれば検討余地に入る。

② 市民活動ポータルサイト“ここからネット”による情報収集・発信

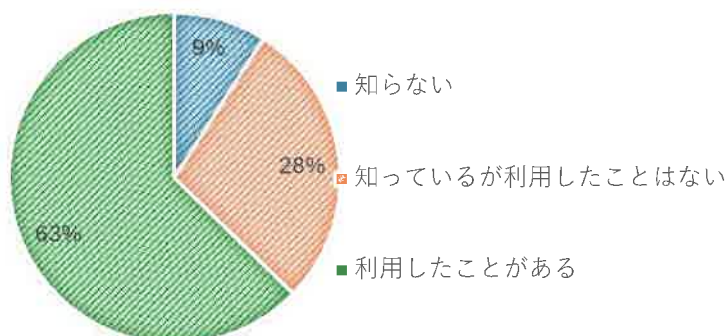


② 市民活動ポータルサイト“ここからネット”による情報収集・発信

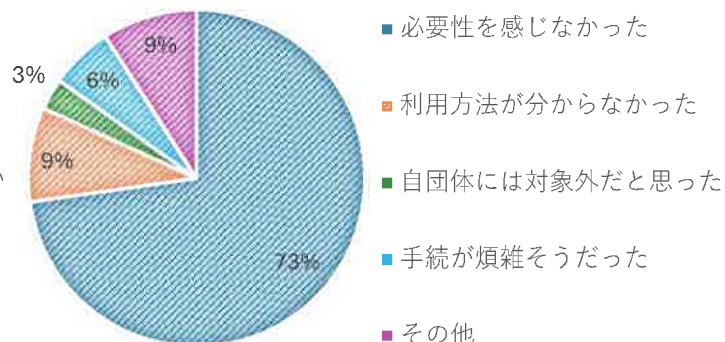


・ここからネットを使うメリットが感じられない。
・ガールスカウトの下部組織

③ 市民活動センターの設備・スペース



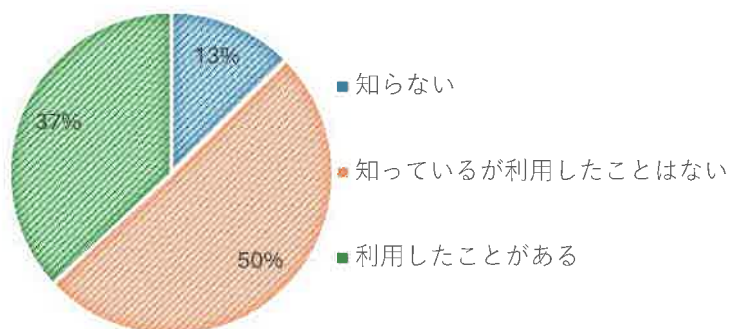
③ 市民活動センターの設備・スペース



静岡市内の市民活動団体の取組に関する調査 集計表

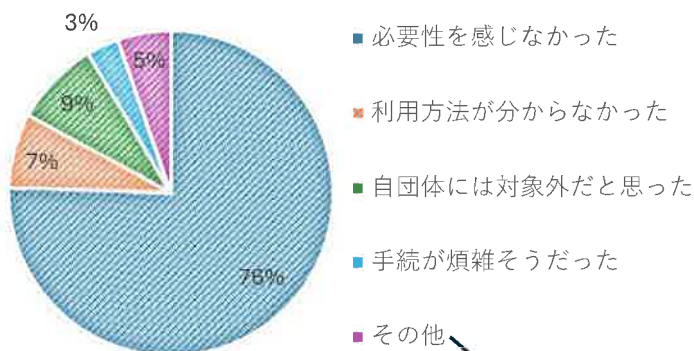
問6 以下の市民活動に関する施策・支援制度を知っていますか。また、利用したことがありますか。

④ 市民活動センターの相談窓口



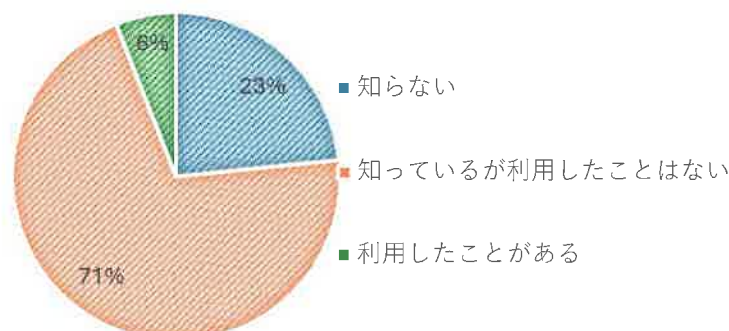
問6-2 「知っているが利用したことはない」と回答した施策・支援制度について利用していない理由

④ 市民活動センターの相談窓口

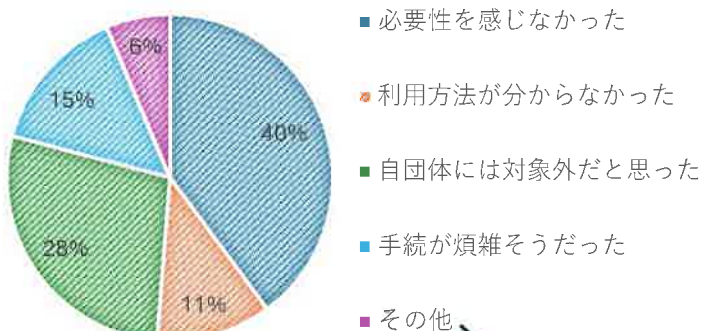


・相談窓口は、センターは協働先の相談を行ったが率先して対応してもらえなかった過去があり、市は法人の手続に関するイメージが強い。

⑤ 協働パイロット事業

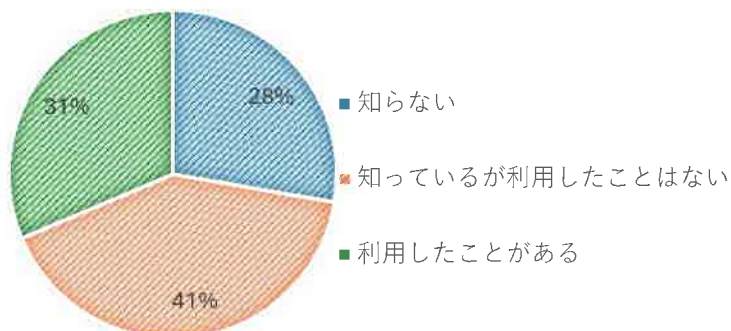


⑤ 協働パイロット事業

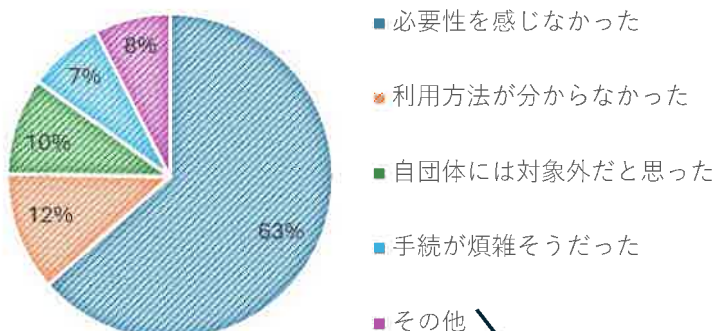


・パイロット事業で以前マンション防災に関して個人的に関わったことがあるが、本気で既存体制を変えようとする姿勢が見られない。
・情報収集タイミングが掴めない（団体として資金を得たいタイミングで、パイロット事業の新規募集や各種活動の情報が手元にない）
・ガールスカウトの下部組織

⑥ 市の相談窓口・担当課による助言（市民活動センター以外）



⑥ 市の相談窓口・担当課による助言（市民活動センター以外）

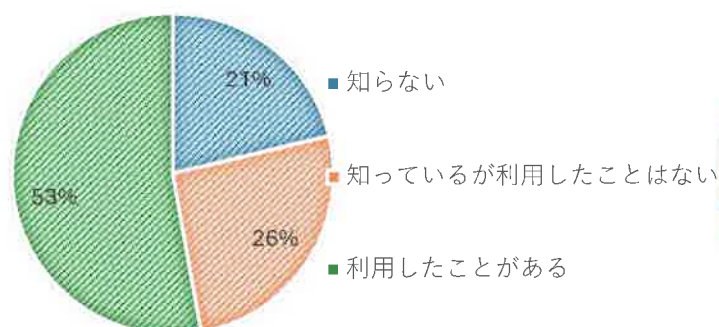


・担当課の助言等を受けないのは、数年で担当者が変わり引き継ぎがない。防災の世界で「残された時間」があるとすれば、それを繰り返しているうちに本番が来るとしており期待はしていないから。

静岡市内の市民活動団体の取組に関する調査 集計表

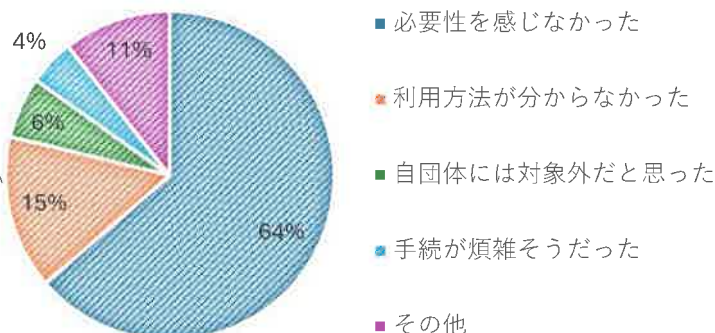
問6 以下の市民活動に関する施策・支援制度を知っていますか。また、利用したことがありますか。

⑦市の施設・スペース（市民活動センター以外）



問6-2 「知っているが利用したことはない」と回答した施策・支援制度について利用していない理由

⑦市の施設・スペース（市民活動センター以外）



問6-2 「知っているが利用したことはない」と回答した施策・支援制度について利用していない理由

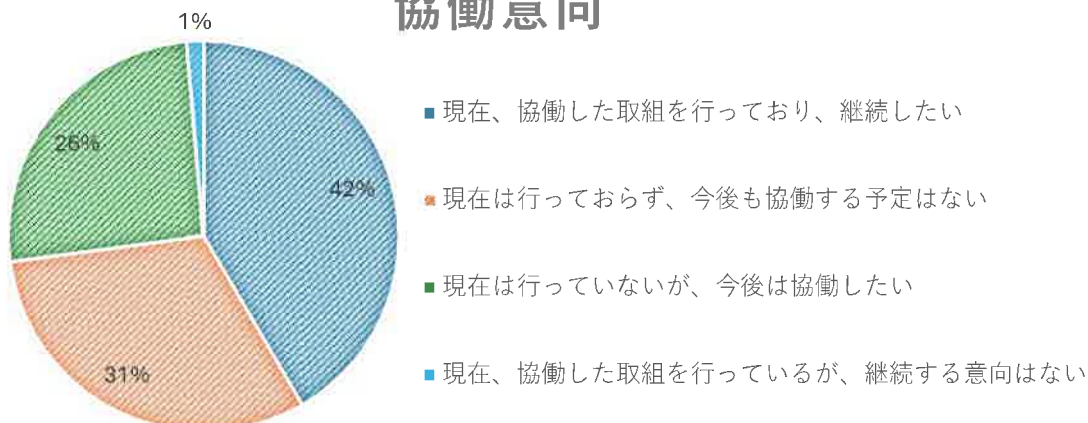
その他 ①～⑦選択なし

- ・自団体には対象外だと思った（学習を目的としている為）
- ・必要性を感じなかった（団体内の活動がメイン、自立してできている）
- ・機会があれば使わせて頂きます。
- ・どう利用できるのが不明。メリット・デメリットの提示がないのが情報発信不足と感じているから。
- ・良く分からなかった、知らなかった。
- ・機会があれば利用したいです
- ・まだまだ知らない支援がある。もっと見聞を広めたい。支援の申請報告が面倒なのも一因。
- ・特になし
- ・活動頻度が少ないため
- ・業務待望で手が回らないから
- ・貴団体の事業規模（年間のおおよその予算額）については本部法人の事業規模として回答しました。
- ・当チームは法人内約70チームのうちの一つであり、当チームとしての事業収益はありません。
- ・過去に利用歴はあるが現在は利用していない

静岡市内の市民活動団体の取組に関する調査 集計表

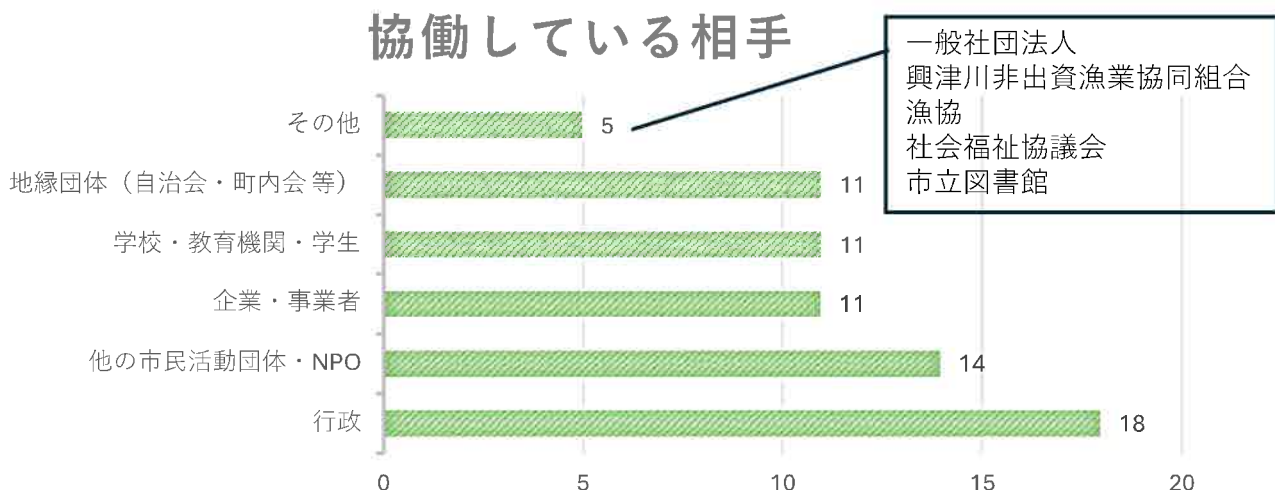
問 7 現在、他の主体（行政・他のNPO・企業等）と協働した取組（事業・活動等）を行っていますか。また、今後の協働意向について、最も近いものを1つ選択してください。

協働意向



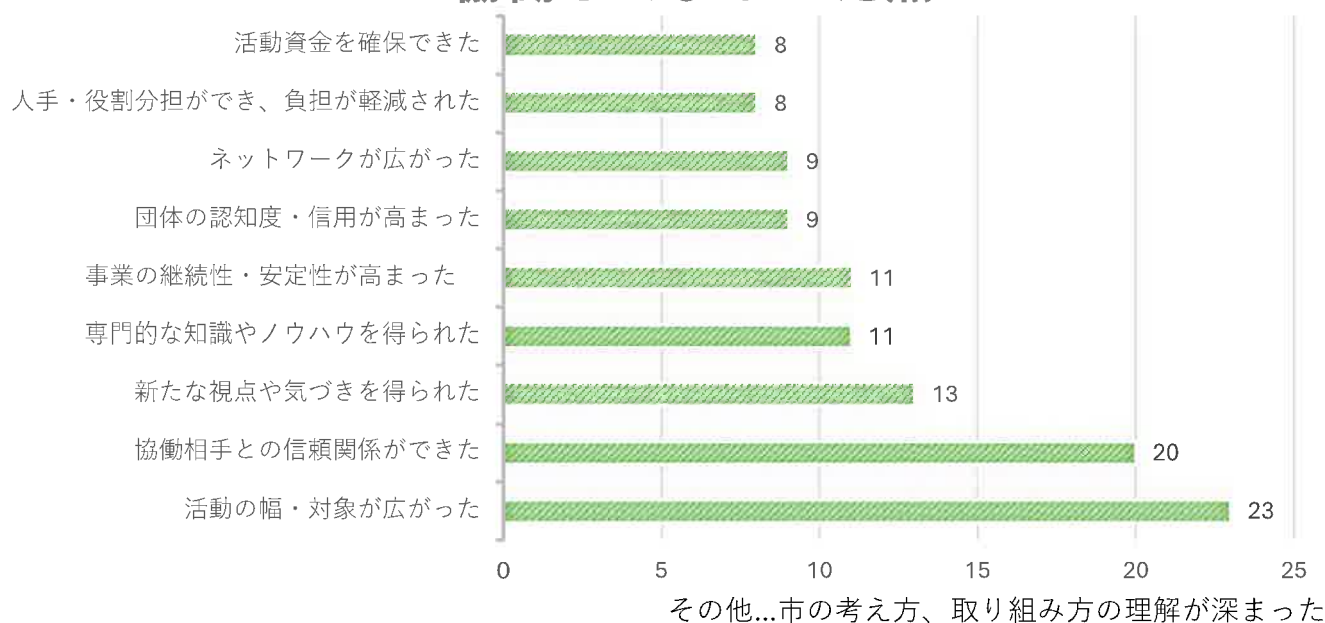
問 7-2 【現在協働している方にお聞きします】協働している相手について、該当するものをすべて選択してください。（複数可）

協働している相手



問 7-3 【現在協働している方にお聞きします】協働してよかったと感じた点は何ですか。（複数可）

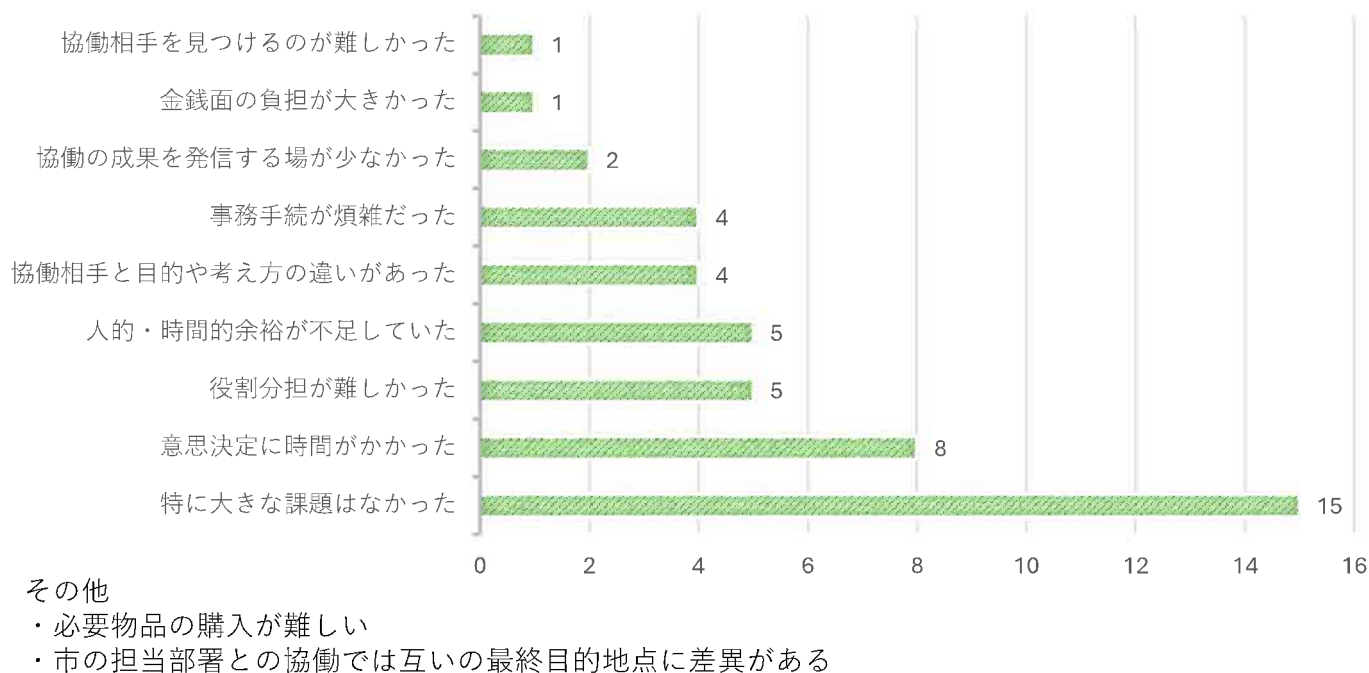
協働してよかった点



静岡市内の市民活動団体の取組に関する調査 集計表

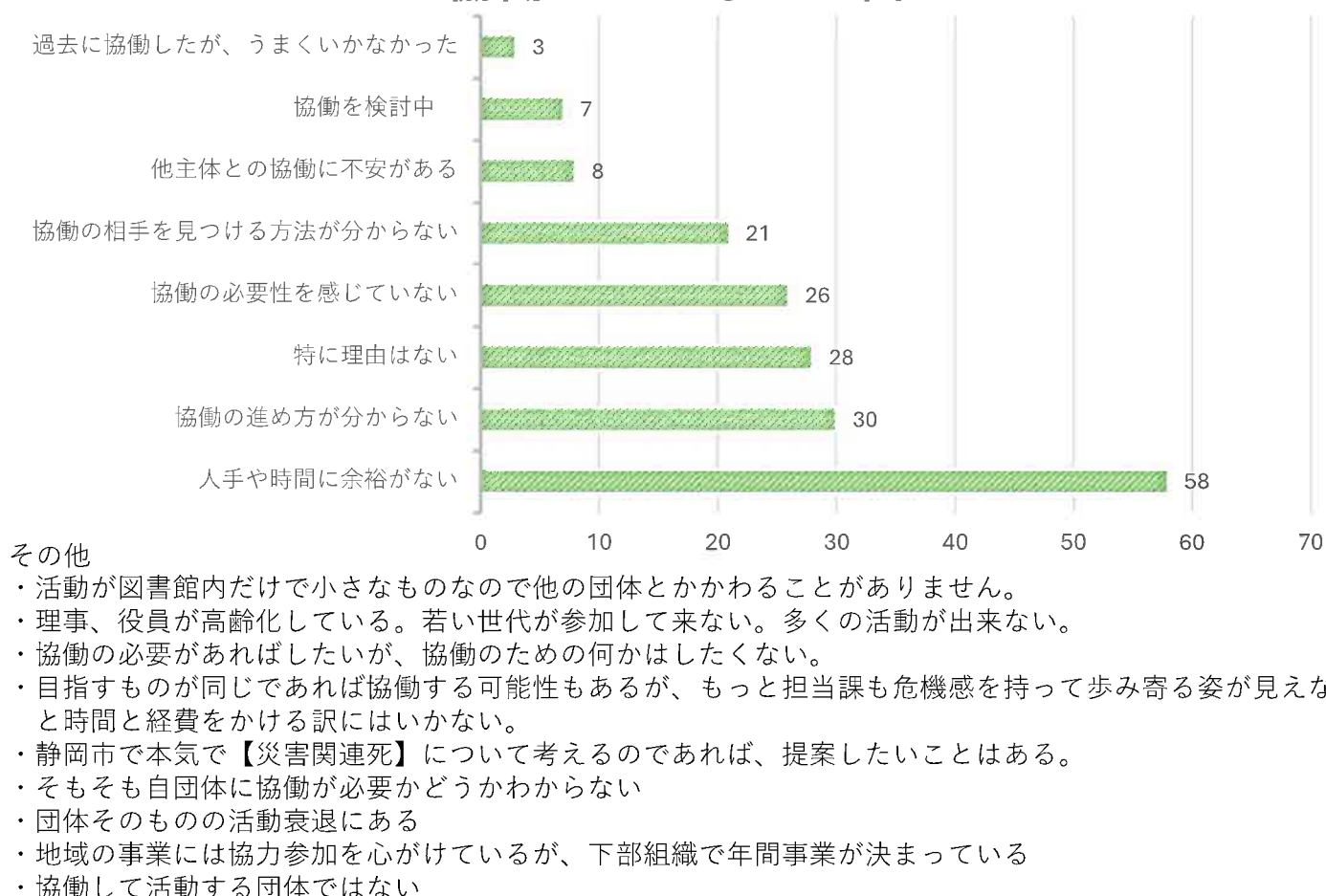
問 7-4 【現在協働している方にお聞きます】協働にあたって大変だった点・課題と感じた点は何ですか。（複数可）

協働にあたっての課題



問 7-5 【現在協働していない方にお聞きます】協働していない理由について、該当するものをすべて選択してください。（複数可）

協働していない理由



静岡市内の市民活動団体の取組に関する調査 集計表

問8 市民活動や市の施策について、感じていることや意見等があればご記入ください。
(自由記述)

- ・学校と協働事業を行いたいと思っても、教育委員会のハードルが高い。
市全体はもちろん、教育委員会の男女共同参画・ジェンダー平等意識のアップデート化が進めばいいなと思います。
- ・静岡市史をインターネットで検索すれば、すぐにわかるようなものを作ってほしい。
男性中心のものではないのは必須です。
- ・私たちのクラブは、静岡ドラゴンボート協会（会長、深澤衆議院議員）の一員として、清水まぐろ祭り実行委員会へ参画し、まぐろ祭りのイベントとして、静岡ドラゴンボート大会ツナカップを開催しています。（昨年で15回目）この大会には、全国から約200名の選手が訪れます。また、今年から活動拠点を清水マリナートに移していますので、巴川を中心にして活動しています。この巴川を活用して、パドルスポーツ×食を中心としたイベントも増やして活動拠点になればと考えていますので、ご助言等頂けましたら幸いです。
- ・環境共生課しぜんふれあい係に事務局を置き、静岡市の環境教育をより充実したものになるようお互いに意見を出し合ったり、協力し合っています。行政が関わっているという事で、イベントの参加者からの信用も得る事ができ、大変助かっています。
- ・「ストップ温暖化しずお」として、16年間の活動を通して、市のホームページに掲載していただいたことで、市民の多くの方に広く知れ渡り、「使用済てんぷら油の回収作業の意（SAF）」を知っていただき、市と企業同志の協同事業へと発展していった。活動の社会的使命をはたすことができた！！
- ・市の福祉行政の考え方が変わってきているのを感じている。政策としてとらえているのではないかな。
- ・清水地区春節の会の会場は「清水は一とぴあ」を借用していますが、会場費は無料にしてほしい。（国際協調の目的のため）
- ・安倍川と藁科川の鮎餌釣りを伝達・普及させたいので、市のブログにどんどん宣伝をお願い致します。
- ・市民活動センターと生涯学習センターは利用基準が違うため市民活動センターとして清水・番町はそれぞれカラーがあり、同じセンターでも対象団体が違うため2つとも必要と考える。センター数を減らすような考えはやめていただきたい。
- ・広い世代と一緒に活動する環境が醸成されていないのかなと思うことがあります。
- ・しずおか一箱古本市の開催にあたり、駿府町・鷹匠の商店街の皆さんには大変お世話になっていますので、商店街の活性化に関心があり当団体にできることがあればと考えています。今後、会場近くの社会福祉会館の関係の方々との協働を検討しています。

静岡市内の市民活動団体の取組に関する調査 集計表

問8 市民活動や市の施策について、感じていることや意見等があればご記入ください。
(自由記述)

- ・ NPOの実態把握が不十分に感じる。
- ・ 市のNPOに対する施策で何があるのか不明であり、市民活動センター自体の認知度も低く、市の本気度が伺えない。
- ・ 現状では、自団体は自団体でがんばるしかないと感じない。
- ・ お題があってもチョイスするまでの提示でないため、どのように自団体に活用できるかわからない。
- ・ センターについても、具体性に欠ける。
- ・ 市が率先して市民活動を活性化したいのなら、市の広報ツール（イベントカレンダーやSNS）をNPOが活用できる施策を拡充させるべきだ。
- ・ 障害者福祉について、根本的に国の制度及び施策が不十分で遅れており、特に規制が厳しすぎる。
- ・ 市政としても障害者福祉に関し、こうした課題について取り組む姿勢が見られない。
- ・ 図書館は多くの人々が愛する施設です。もっと呼び掛けて図書館を支える活動を続けていきたい。
- ・ 協働パイロット事業を実施して、大変勉強になり、継続に向けての意識は高まっている。周囲の人々を巻き込むにしても大きな看板となる。
- ・ 市の施策として難病についての施策をもっと行ってほしい。
- ・ 患者交流会などNPOの活動のPRの協力、講演会会場の借用もしてもらえなかった。
- ・ 情報をもっと取り入れたいが、その方法がわからない
- ・ 公報（静岡気分）に掲載したいが、それが出来ない
- ・ 各団体が自由に使用できるオープンスペースがほしい
- ・ 今年度で活動をやめようと思っています。子育て支援は今の時代難しいため
- ・ 今後も大いに積極的にいろいろな事業を進めていってほしいと思います
- ・ 市政策をスタッフ全員で再度勉強すること
- ・ 行政の縦割り構造の解消が必要。協働となれば大きな障害を感じる

第4次市民活動促進基本計画見直しに係る 市民ワークショップ開催結果

2026. 7. 6
静岡市市民自治推進課 今西



市民ワークショップ開催結果

ワークショップ概要

「みんなの対話テーブル まちのこと、活動のこと、ちょっと話そう」
～あなたの声、しずおかのこれからに届けてみませんか？～

1 目的

市民活動促進基本計画の中間見直しにあたり、市民活動の現場における実態や変化、課題等を把握するため、ワークショップを実施する。市民活動の現場における率直な意見や感覚的な変化を把握し、その結果を評価の基本的視点に基づき整理し、質的評価の材料とする。

2 開催概要

- (1) 日時 令和8年5月30日(土) 14時～16時30分
(2) 会場 茶木魚 (3) 参加者 12名(4名×3グループ)

3 対象

市民活動に関心のある市民

4 ファシリテーター

一般社団法人グリーンパークあさはた 木下 聡 氏
(9期市民活動促進協議会委員)

5 内容(全体約150分)

【アイスブレイク】

💡 氏名 団体名 参加動機 最近感じている「モヤモヤ」

【テーマ①みんなの理想のまち】

💡 どんなまちになったらよいか

💡 理想のまちに向けて自分たちはどんな存在か

【テーマ②静岡市の目指すまち】

💡 目指す姿への率直な印象

※計画の目指す姿を提示

💡 静岡市の目指す姿に向けて自分たちはどんな存在か

【テーマ③活動の課題・必要な支援】

💡 もやもや(まちのこと・活動のこと)

市民ワークショップ開催結果

○開催チラシ

みんなの対話テーブル

まちのこと、
活動のこと、
ちょっと話そう



あなたの声、しずおかのこれからに届けてみませんか？

市民活動をしていて感じていること、
ちょっとした気づきや工夫していること、
こんなふうになったらいいな、ということ。

そんなひとりひとりの声を持ち寄って、
ゆるやかに話す場をひらきます。

あなたの声が、これからのまちや市民活動に
つながっていくかもしれません。

進行役
木下 聡



あさはた緑地管理事務所所長
公園管理に従事する傍ら国際協力・
SDGs・市民活動などを中心に活動



特別な準備はいりません

気軽にご参加いただけます

※本ワークショップは第4次静岡市市民活動促進基本計画
の中間見直しの一環として実施します。

令和8年

5月30日(土)

14時～16時30分

場所 静岡市役所 静岡庁舎 新館3階 茶木魚
(静岡市葵区追手町5番1号)

対象 市民活動に関心のある方

定員 30名

お申し込みはこちら▷

申込締切
5月28日(木)
17時



主催 静岡市市民自治推進課 TEL 054-221-1372

○ワークショップの様子



○ファシリテーター



市民ワークショップ開催結果

テーマ1:理想のまち

グループ1

💡 多様性・共生

- ・ 様々な価値観や背景を持つ人が共存できるまち
- ・ 多様な人が違いを認め合いながら暮らせるまち
- ・ 誰もが居場所を持てるまち

💡 世代を問わない魅力

- ・ 子どもだけでなく、大人も楽しめる
- ・ 様々な世代が生きがいや楽しみを持てるまち
- ・ 好きなことや人とのつながりが見つかるまち
- ・ 若い世代や40～50代が元気に活動できるまち

💡 暮らしやすさ・居心地の良さ

- ・ 「なんとなく好き」と思える居心地の良いまち
- ・ ゆるやかな時間が流れるまち
- ・ 一度離れても戻ってきたくなるまち

グループ2

💡 誰もが自分らしく暮らせるまち

- ・ 活躍することを求められるのではなく、自分らしく生活できるまち
- ・ 何かに挑戦したい人も、静かに暮らしたい人も、それぞれの生き方が尊重されるまち

💡 人とのつながりが生まれるまち

- ・ 知り合いがいることで安心して活動や地域との関わりを持つことができる。
- ・ 多様な人が自然に交流できる場があるとよい。

💡 若者や学生が地域で活躍できるまち

- ・ 学生同士や大学間の連携を広げることで、新たな活動やネットワークが生まれる。
- ・ 災害ボランティアなどを通じて、若い世代が地域と関わる機会を増やしたい。

グループ3

💡 人とのつながりを感じられるまち

- ・ 地域内外の人が気軽に立ち寄り、交流できる場所があるまち
- ・ 共通点だけでなく、それぞれの違いを認め合えるまち
- ・ 世代や属性を超えて自然につながりが生まれるまち

💡 誰もが居場所を持てるまち

- ・ 地域住民だけでなく、旅行者や移住者も受け入れられるまち
- ・ 「どこから来たの？」と自然に声を掛け合えるような雰囲気があるとよい
- ・ 誰もが気軽に過ごせる居場所や立ち寄り場所が必要

💡 多様な人が共に暮らせるまち

- ・ 外国人住民が増える中で、地域の一員として関われるまち
- ・ 違いを尊重しながら共生できる地域社会が望ましい

市民ワークショップ開催結果

テーマ1:理想のまち

ワークショップから見てきたこと

💡 利便性や経済性だけでなく、地域への愛着や居心地の良さ、人とのつながりが重視されている。

💡 多様な人が自然に関わり合える地域社会が望まれている。

💡 理想のまちとして、「活躍」よりも、自分らしく暮らしながら必要なときに人とつながれることや居場所の存在が重視されている。

市民ワークショップ開催結果

テーマ2: 静岡市の目指すまち

多様な人びとが、あたりまえに活躍できるまち
～主体的にチャレンジできる、自発的に支えあいができる、静岡～

グループ1

💡 共感された点

～ポジティブ～

- ・「活躍できる」「チャレンジできる」「支え合える」という方向性は良い
- ・やりたい人が挑戦できる環境が大切
- ・主体性を尊重する考え方に共感

💡 課題・表現に関する意見

～検討余地～

- ・「多様な人々」は外国人、障がい者、LGBTQなどを含めてイメージしやすい
- ・一方で「多様」という言葉が分類的に感じる
- ・「誰でも活躍できる」の方が伝わりやすい
- ・「市民活動」という言葉に堅苦しさをを感じる

グループ2

💡 共感された点

～「できる」という表現への共感～

- ・「活躍するまち」ではなく「活躍できるまち」となっている点が良い
- ・活躍を強制するのではなく、やりたいと思った人が挑戦できる環境を表している

～多様性を尊重する考え方～

- ・「多様な人々」という表現から、外国人や性的マイノリティなど様々な人をイメージできる
- ・誰もが受け入れられる社会を目指す方向性は良い

💡 課題・表現に関する意見

～「チャレンジ」の難しさ～

- ・実際にはチャレンジしたいと思っても、最初の一步を踏み出すことが難しい
- ・「チャレンジできる」という状態を実現するための支援が重要

～「活躍」という言葉への違和感～

- ・活躍しなくても、その地域で生活していること自体に価値がある
- ・「活躍」という言葉が一部の人にはプレッシャーとして受け取られる可能性

グループ3

💡 共感された点

～「多様な人々」という表現～

- ・外国人、障がい者、性的マイノリティなど幅広い人をイメージできる
- ・見えにくい困難を抱える人も含めて考えられる表現である

～「活躍できる」という表現～

- ・「活躍する」ではなく「活躍できる」となっている点が良い
- ・やりたい人が活動できる環境づくりという意味で受け止められていた

～「主体的にチャレンジできる」～

- ・自分の意思で挑戦できることが重要
- ・強制ではなく、自ら動きたくなったときに行動できる環境が望ましい

💡 課題・表現に関する意見

～チャレンジまでのハードル～

- ・「チャレンジできる」と言うだけではなく実際に行動へ移すための支援や環境づくりが必要
- ・一步踏み出すまでの壁をどう下げるかが重要である

市民ワークショップ開催結果

テーマ2:静岡市の目指すまち

ワークショップから見てきたこと

💡 計画の目指す方向性には共感が得られている一方、言葉の伝わり方に課題。

💡 「活躍」「チャレンジ」といった言葉が一部の人にはハードルとして受け止められる可能性。

💡 「できる」を実現するための環境やきっかけづくりが重要。

市民ワークショップ開催結果

テーマ3:モヤモヤ(まち・活動のこと)

グループ1

💡 人口流出・若者定着

- ・若者が市外へ流出している
- ・仕事やチャレンジの機会が少ない
- ・家賃や土地価格が高い
- ・静岡に戻ってきたくする魅力が必要

💡 ジェンダーに関する違和感

- ・女性がケア役・サポート役を担う場面が多い
- ・学校や部活動にも役割分担の名残がある
- ・社会や教育の影響が大きいのではないか

💡 市民活動へのハードル

- ・自治会、PTA、見守り活動も市民活動である
- ・本人は「市民活動」と認識していない場合が多い
- ・「ボランティア」「市民活動」という名称が参加の壁になることがある

グループ2

💡 活動への参加のきっかけ

- ・市民活動は自ら探して参加する人よりも、知人や周囲からの誘いがきっかけとなる場合が多いのではないか
- ・「知っている人がいること」が参加への安心感につながる

💡 情報が届きにくい

- ・市民活動センターや生涯学習交流館などの存在や役割が十分に知られていない
- ・転入者やアパート居住者などは地域との接点が少なく、情報が届きにくい

💡 市民活動と行政の関わり方

- ・市民活動を支援する際には、単に活動を促すだけでなく、活動の障壁を取り除くことも重要
- ・活動したい人同士をつなぐことや、制度上の課題を把握して改善することも行政の役割ではないか

💡 市民活動の意義

- ・公共的な課題を行政任せにするのではなく、市民自身も関わりながら地域を良くしていくことが大切
- ・市民活動は新しい公共を支える役割を持っている

グループ3

💡 外国人住民とのつながり

- ・外国人住民が増えている一方で、地域活動への参加にはハードルがある
- ・情報の伝え方や開催場所によって参加しやすさが変わる
- ・外国人住民を「支援する対象」としてではなく地域の一員として関わってもらうことが重要

💡 活動への参加のきっかけ

- ・「活動のため」ではなく「面白そう」「興味がある」ことから参加する場合が多い
- ・活動への参加を促すよりも、自然に関われる入口づくりが重要
- ・活動を押し付けるのではなく、楽しさや好奇心を大切にしたい

💡 つながりの希薄化

- ・自治会や地域活動への参加が減少
- ・人とのつながり自体は必要、踏み込みすぎない緩やかな関係性が求められている
- ・活動団体同士が知り合い、つながる機会の重要性

💡 多様な人が参加できる環境

- ・目に見えない障がいなど、周囲から見えにくい困難を抱える人もいる
- ・多様な人が参加しやすい環境づくりや理解促進が必要

市民ワークショップ開催結果

テーマ3:モヤモヤ(まち・活動のこと)

ワークショップから見てきたこと

💡 既に行われている身近な活動を“市民活動として見える化すること”が重要。

💡 市民活動への関心はあるものの、参加のきっかけづくりや情報発信、活動を支える仕組みづくりが課題として挙げられた。

💡 市民活動を広げるためには、活動そのものを促すだけでなく、参加の入口づくり、居場所づくり、多様な人同士がつながる機会づくりが重要。

市民ワークショップ開催結果

中間見直しの基本的視点に基づく分析

①施策全体が相互に連動し、

市民活動を支えられているか

(立ち上げ・継続・発展の各段階、つながりの形成を含む)

- ・市民活動に関心を持つきっかけや参加の入口について多くの意見が出されていた
- ▷活動への参加は制度や情報そのものよりも、「知人からの誘い」「興味のあるテーマ」「人とのつながり」などを契機としている実態
- ・「市民活動」という言葉に堅苦しさや特別感を感じる
- ・自治会活動、PTA活動、見守り活動などを行っていても自らを市民活動の担い手と認識していない
- ▷市民活動への参加の入口が十分に見えやすくない状況
- ・活動団体同士の交流や、人と人とのつながりを求める意見も多く見られた
- ▷活動の立ち上げ支援や情報発信だけでなく、活動者同士や活動と市民をつなぐ機会の創出が重要である

見えてきた課題

- ・市民活動への参加の入口が分かりにくい
- ・市民活動が身近なものとして認識されていない
- ・活動を始める前段階の「興味・関心」と活動との接続が弱い
- ・活動者同士や活動と市民をつなぐ仕組みへのニーズが高い

評価の視点

市民活動の立ち上げから継続・発展までを支える施策は実施されているものの、市民からは「参加のきっかけ」や「つながりづくり」の重要性が多く挙げられており、計画が市民活動の入口から発展段階まで連続的に機能しているかについては、引き続き検証が必要。

市民ワークショップ開催結果

中間見直しの基本的視点に基づく分析

②市民活動への支援は、実態に即した効果的なものとなっているか

- ・ 市民活動センターや生涯学習交流館などの活動支援拠点について認知度が十分でない
▷ 地域活動に関する情報が必要な人に届いていない
- ・ 「活躍」「チャレンジ」といった計画上の表現については方向性に共感する意見が多かった一方で、「活躍しなくてもよい」「自分らしく暮らしたい」といった声もある
▷ 支援の対象を活動意欲の高い層だけでなく、多様な市民の参加や関わり方を前提として考える必要性
- ・ 外国人住民や見えにくい困難を抱える人々への配慮、若者の地域参加の促進
▷ 多様な主体が参加しやすい環境づくりが求められている

見えてきた課題

- ・ 支援制度や支援拠点の認知が十分ではない
- ・ 情報発信が市民の実態や情報取得方法に必ずしも合致していない
- ・ 活動したい人だけでなく、関心層や潜在的な担い手へのアプローチが必要
- ・ 多様な背景を持つ人が参加しやすい環境づくりが求められている

評価の視点

現行計画に基づく支援は一定の役割を果たしているものの、市民活動を行う団体への支援に加え、市民活動に関心を持つ前段階の市民や、活動に参加しづらさを感じている層へのアプローチについては、更なる工夫の余地がある

市民ワークショップ開催結果

まとめ

- 💡 多様な人がつながること
- 💡 地域への愛着を育むこと
- 💡 誰もが自分らしく関われること に対する共感は大い

一方で、

- 💡 「市民活動」という言葉の伝わりにくさ
- 💡 活動への入口の分りにくさ
- 💡 情報発信の届きにくさ
- 💡 活動者同士や市民とのつながりづくり といった課題

計画見直しにおいては、活動支援そのものに加え、「参加のきっかけづくり」と「つながりの形成」を重視した展開を検討する必要がある。

市民ワークショップ「みんなの対話テーブル」

～まちのこと、活動のこと、ちょっとはなそう～

アンケート結果



令和8年5月

市民自治推進課

市民ワークショップ「みんなの対話テーブル」

～まちのこと、活動のこと、ちょっとはなそう～概要

(市民自治推進課)

1 ワークショップ概要

1 目的

市民活動促進基本計画の中間見直しにあたり、市民活動の現場における実態や変化、課題等を把握するため、ワークショップを実施する。

なお、本ワークショップでは評価を直接的に求めるのではなく、市民活動の現場における率直な意見や感覚的な変化を把握し、その結果を評価の基本的視点に基づき整理し、質的評価の材料とする。

2 開催概要

- (1) 日時 令和8年5月30日(土) 14時～16時30分
- (2) 会場 静岡市役所 静岡庁舎 新館3階 茶木魚(ちゃきつと)
- (3) 参加者 12名(4名×3グループ)
- (4) 対象 市民活動に関心のある方

3 内容(全体約150分)

市民活動の“いま”と“これから”をテーマに現状や課題、ニーズ等について、参加者同士で意見交換を行う。

4 ファシリテーター

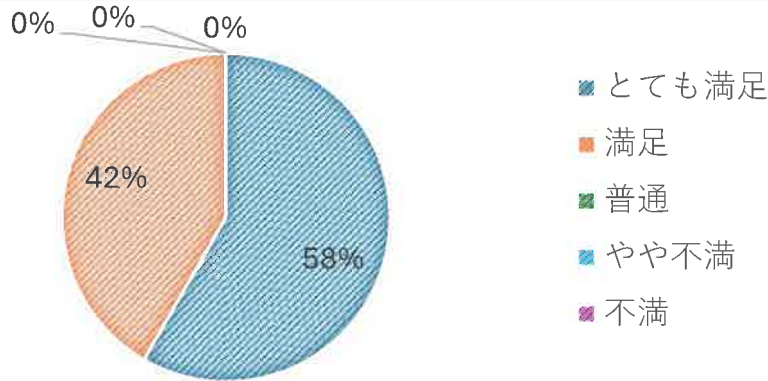
9期市民活動促進協議会委員 一般社団法人グリーンパークあさはた 木下 聡 氏

2 ワークショップ終了後 アンケート結果

別添集計表のとおり

WSアンケート 集計表

Q1. 本日のワークショップの満足度を教えてください



Q2. ワークショップで特に印象に残ったことを教えてください。

- ・参加者の多様な意見が聞けてよかったです。
- ・ゆるいテーマの方が自由度高く話せることがあり、面白かったです。
- ・具体的なテーマやかたい言葉を据え置いて会が進行されたのがとても参加しやすかった。
- ・生きづらさを感じている当事者の方の話を聞いたことは貴重でした。
- ・ゆるさ加減がよかった。多様な人が参加していてよかった。まとめるのは大変ですけど...
- ・考えを話し合う。
- ・市民活動センターで活動している参加者が多い。
- ・一昨日、「生涯学習と市民活動（パブコメ）」に関するワークショップに参加したこともあり、「多様な人びとがあたりまえに活躍できるまち」を目標にするなら、生涯学習とかで学んだことで、活躍できる“可能性”を高めて、何か問題が見えたときに活動したり、活動している人の理解（自分は活動しなくても）する引っかけにはなると思うと伝えたい。
- ・認識、活動の多様さに改めて考えることができた。
- ・皆さん、それぞれにご自身の中にキーワードを持っていること。
- ・大人が楽しめるまち。
- ・出入り自由。
- ・役割はいろいろあるけれど、ひとりひとりが市民である。
- ・若い世代の参加者が多く、今まで聴けなかった話を聴けた。

Q3. 話し足りなかったこと・もっと話したかったことがあれば教えてください。

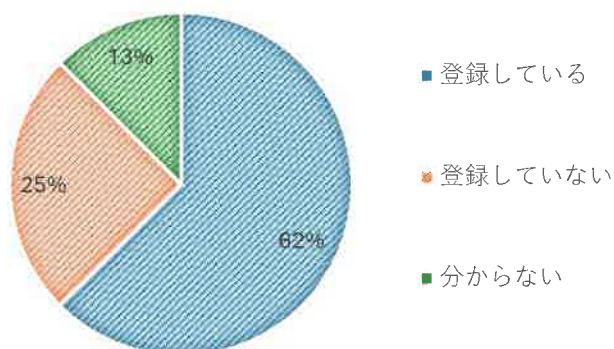
- ・市民活動とは 市民とは 具体的なイメージについて
- ・第4次市民活動促進基本計画の内容については（スローガン以外）よくわからなかった
- ・私のもやもやに対しての意見なども知りたい
- ・特にありません。
- ・静岡市の「まち」の話とかをもっとできるともっと楽しかったかも
- ・“多様な人”についてももう少し深掘りしたかったです。
- ・静岡市の人口が少なくなっていることは本当に問題なのか？なぜ困るのか、みんなの考えを話してみたい。
- ・ないです。あとは自分の中で発酵させます。
- ・基本計画についてももう少し目標など話ができるとよかったです。

WSアンケート 集計表

Q4. 第4次静岡市市民活動促進基本計画について感じたことがあれば教えてください。

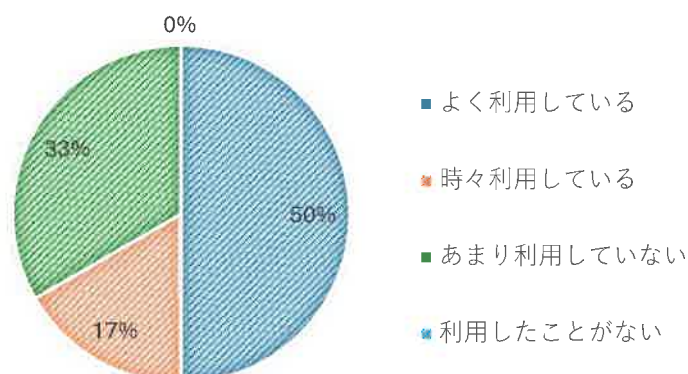
- ・言葉が少し難しいと思います。
- ・当時、一生懸命頭を悩ませて作りましたが、時間がたっていろんな方々と話すとまたこれでよかったのかなと思いました。ゴールエンドって難しいなあ。
- ・詳細は改めて確認させていただきます。計画を策定した方たちお疲れ様でした。
- ・「市民自治」の文脈は維持してください。
- ・市民が主役であって市民を使うみたいな形にはならないようにしたいです。
- ・「多様」「あたりまえ」は堅苦しい。
- ・パブコメでもと思いますが、こういった資料は卓上の論（書き方）になるのは当然なので、当事者同士その前提で話し合えればいいと思った。
- ・素敵だと思いました。当然強制されるようなものはないですし、肯定的なサポートを感じました。

Q5. 《市民活動団体に所属している方》団体は、市民活動センターに利用登録していますか。



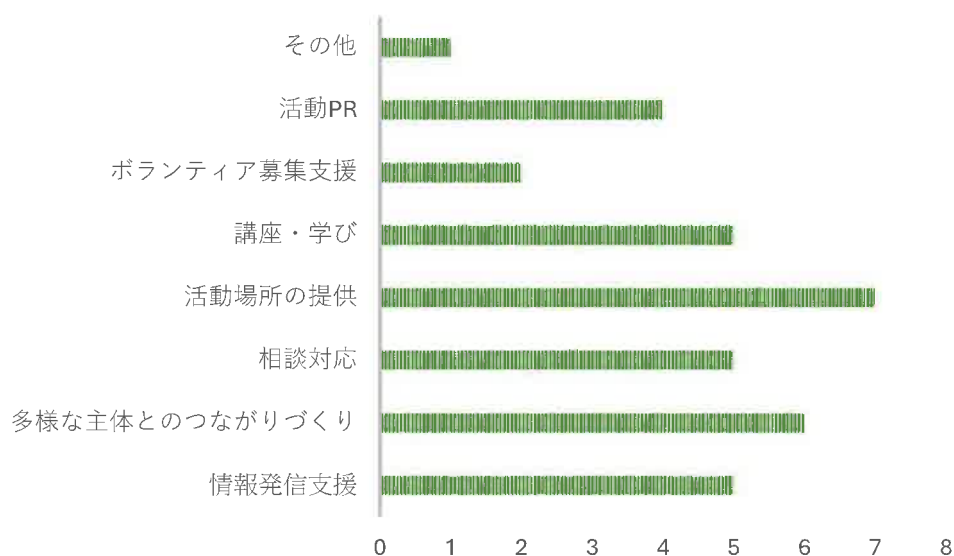
回答8/12(人)

Q6. 《Q5で登録していると回答した方》市民活動センターをどの程度利用していますか。



WSアンケート 集計表

Q7. 市民活動センターに期待することを教えてください。（複数選択可）



Q8. その他、本日のワークショップで気づいた点・感想等ございましたらご記入ください。

- ・今回のようなゆるっとした雰囲気は参加しやすかったので、意識のちょい低い（高くはない）くらいの層も参加してたらより面白いただろうなと思った。
- ・エアコンがついてなかったのが逆に過ごしやすかった！
- ・ノリと勢いと好奇心で参加しました。今回の時間を過ごして、これからもノリと勢いと好奇心で様々なことに取り組んでいきたいと思いました。
- ・進め方で参考になることも多くありました。
- ・多様な！いつも知り合っているメンバーではない方々と“まち”のことを考えることができてうれしかったです。
- ・市民それぞれの意見があることに気づきました。
- ・少しずつひろいあつめるのも楽しいです。

第3回 市民活動促進協議会 振り返り

2026. 7. 6
静岡市市民自治推進課 今西



第3回市民活動促進協議会振り返り

第3回協議会の概要

開催日時： 令和8年3月23日（月）14時30分～16時30分

場 所： 静岡市葵消防署 7階 講堂

参加者： 協議会委員10名、事務局3名

目 的： 柱3・4の中間見直しを行う

主な議題

- （1）第5次静岡市総合計画について
- （2）来年度の事業について
- （3）今後のスケジュールについて
- （4）第2回協議会振り返り
- （5）中間見直しにおける評価の基本的視点について
- （6）柱3・4の中間見直しについて
- （7）意見交換



第3回市民活動促進協議会振り返り

意見の要約

① 数値だけでは評価できない

- ・ 指標の数値は概ね順調に推移
- ・ 一方で数値だけで施策の評価はできない
- ・ 良い事例だけではなく、想定どおりにいかなかった事例もないと評価が難しい

② 施策の連動性はどう見るのか

- ・ 一つの団体が施策を順番に利用して成長するとは限らない
- ・ 施策ごとの役割や位置付けを整理して考える必要がある
- ・ 「施策全体が連動しているか」の評価は簡単ではない

第3回市民活動促進協議会振り返り

意見の要約

③ 質的評価の必要性

- ・ワークショップ等を活用して数値の背景を確認した方がよい
- ・登録団体数が増えたことだけではなく、その後どのような関わりがあったのかを見る必要
- ・活動者が何を期待し、どのような支援を受けたのか把握することが重要

④ 人材育成・活動の継承という視点

- ・評価は活動を継続するために重要である
- ・どのような人材を育て、次世代へつなげていくかという視点も必要

第3回市民活動促進協議会振り返り

基本的視点

- ①施策全体が相互に連動し、市民活動を支えられているか
(立ち上げ・継続・発展の各段階、つながりの形成を含む)
- ②市民活動への支援は、実態に即した
効果的なものとなっているか

本日のゴール

協議1

施策の柱3(創る・実現する)施策の柱4(つながる、変わる)について
の中間見直し

- ・ 成果指標の数値見直しについて
- ・ 市民ワークショップ等の結果、基本的視点を踏まえ、柱3・4の評価を行う。

協議2

答申案についての検討

- ・ 10月の答申に向けた案の検討(構成等)

第4次静岡市市民活動促進基本計画
施策の柱3・4の中間見直しについて

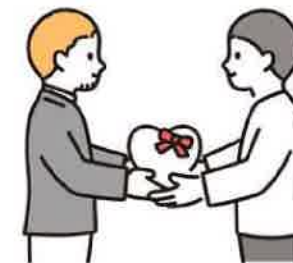
2026. 7. 6
静岡市市民自治推進課 今西



施策の柱3 創る・実現する

市の取組:市民活動を支える気運を高める

取組の方向性



(1)市民が市民活動を支え合える仕組みづくり

市民同士が相互にその活動や環境を支えていくため、市民活動の具体的事例等の情報の蓄積と活用や、寄附やボランティア等といった様々な形での支え合いがしやすい環境づくりに取り組みます。

(2)市民活動団体の基盤強化のための支援

市民活動団体がその力を十分に発揮できる環境を整えられるよう、市民活動に係る人材や団体の育成、資金調達の情報提供や技術的支援等、幅広いサポートに取り組みます。

想定される事業

- ・ 市民活動センターの運営（人材・団体育成講座） 【市民自治推進課】
- ・ 市民活動センターの運営（会議室や事務ブース等の提供） 【市民自治推進課】
- ・ ふるさと応援寄附金等によるNPO等指定寄附事業 【市民自治推進課】

施策の柱3 創る・実現する

市の取組:市民活動を支える気運を高める

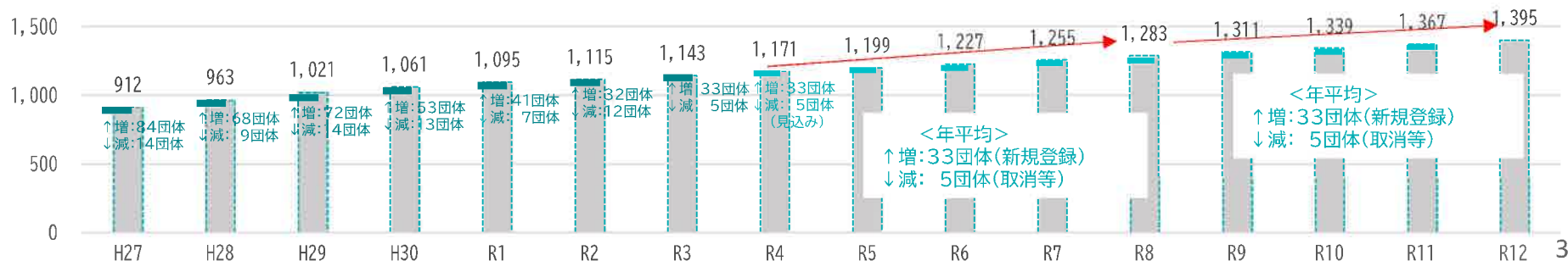
成果指標

指標名	現状(策定時)	中間目標(R8)	最終目標(R12)
市民活動センターにおける新規登録団体数	33団体／年(R3) (総数1,143団体)	R5～R8平均 33団体／年 (総数1,283団体)	R9～R12平均 33団体／年 (総数1,395団体)

(成果指標の設定理由)

「様々な市民活動が創られている状態」を把握するにあたり、市内における全ての活動の立ち上げや活動内容を把握することは困難です。そのような中、市の施策において市民活動の立ち上げや、活動に関する情報の交流拠点としては市民活動センターがその役割を担っていることから、市民活動センターにおける新規登録団体数が市の施策としての直接的な成果と、市内全体における傾向を把握するための一つの指標となり得ると考え設定しました。

目標値については、登録団体の総数は増加傾向にあるものの、各年度における新規登録団体数はコロナ以前から減少傾向であることを踏まえ、令和3年度の数値を維持することとし、年度によるばらつきも生じることから、計画前期、後期それぞれの4年間の平均の年間登録団体数としました。

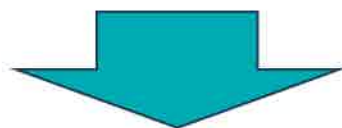


施策の柱3 創る・実現する

市の取組:市民活動を支える気運を高める

成果指標

指標名	現状(策定時)	中間目標(R8)	最終目標(R12)
市民活動センターにおける新規登録団体数	33団体／年(R3) (総数1,143団体)	R5～R8平均 33団体／年 (総数1,283団体)	R9～R12平均 33団体／年 (総数1,395団体)



進捗:市民活動センターにおける新規登録団体数(R3～R7実績)

指標名	R3(策定時)	R4	R5	R6	R7
市民活動センターにおける新規登録団体数	33団体／年 (総数1,143団体)	42団体／年 (総数1,175団体)	52団体／年 (総数1,211団体)	51団体／年 (総数1,252団体)	55団体／年 (総数1,285団体)

ふるさと応援寄附金等による NPO等指定寄附事業

【評価の基本的視点】

- ①施策全体が相互に連動し、市民活動を支えられているか
(立ち上げ・継続・発展の各段階、つながりの形成を含む)
- ②市民活動への支援は、実態に即した効果的なものとなっているか

静岡市が、市民活動団体の公益的な活動（プロジェクト）について、ふるさと納税の仕組みを活用して市内外から寄附を募り、集まった寄附額を助成金として応募団体に交付する事業

【プロジェクト数の推移】

R2	R3	R4	R5	R6	R7
16件	8件	6件	4件	2件	3件

【目標達成率】 寄付金額目標達成プロジェクト：4プロジェクト（全36プロジェクト）

【団体意見】

GOOD

「団体や活動の周知に対して、とても効果があった。」
「寄附金をいただけて活動の補助（事業実施）に有効であった」

BAD

「寄附が想定よりも集まらない」
「寄附金の使途が限られる」
「ターゲットとする人にダイレクトに呼びかけることが出来ない」

- ・制度を複数回利用している団体もあり、団体の資金調達の手段の一助として一定の効果を果たしている。
- ・プロジェクト数が減少傾向である。
- ・寄附金額の目標達成率が低調である。

▶市民同士の相互の支え合いや、市民活動の継続性については課題が残る

ふるさと応援寄附金等によるNPO等指定寄附事業

【事例】 小さな村から感動を再び！一色手筒花火復活プロジェクト（葵区服織西自治会連合会）

【課題】

地域で永く親しまれてきた一色手筒花火は、担い手である「一色煙火保存会」の会員の高齢化や資金不足により、活動の継続ができない状態になっていた。
地域文化の継承等のため、復活が求められていた。

【プロジェクト内容】

- ✓服西感動花火大会の開催
- ✓一色煙火保存会メンバーの募集

【寄付金額】

累計:106万2千円



【効果】

- ✓「一色煙火保存会」の復活が叶い、花火大会を再び開催することができた。
- ✓市内外から多くの来場客が訪れ、花火をきっかけに「花火撮影ツアー」の開催が決定。
令和6年3月に全国から約50名が新聞地区を訪れることになるなど、新たな人の流れを生み出した。
- ✓花火を上げる際に、メンバー募集をおこなった結果、令和4年度から5名増員
20代～30代のメンバーが増え、新陳代謝が図られている。

市民活動センター

静岡市で市民活動を行う市民の活動拠点

【評価の基本的視点】

- ①施策全体が相互に連動し、市民活動を支えられているか
(立ち上げ・継続・発展の各段階、つながりの形成を含む)
- ②市民活動への支援は、実態に即した効果的なものとなっているか

番町市民活動センター

名称	静岡市番町市民活動センター
位置	静岡市葵区一番町50番地
規模	RC造地上4階建ての1階一部及び2階 延床面積1,386.38㎡
隣接 施設	特別支援教育センター (市学校教育課所管)
駐車場	20台(特別支援教育センターと共用)
駐輪場	14台(特別支援教育センターと共用)
施設 内容	オープンスペース、情報コーナー、会議室、事務ブース、 貸事務室、貸ロッカー、メールボックス、印刷作業室、託 児室等

清水市民活動センター

名称	静岡市清水市民活動センター
位置	静岡市清水区港町二丁目1番1号
規模	RC造地上13階建ての2階 延床面積472.6㎡(うち専有386.3㎡)
隣接 施設	教育支援センター「はばたく教室」 (市こども若者応援課所管)
駐車場	9台(うち、5台分は民間Pを借用)
駐輪場	18台
施設 内容	オープンスペース、情報コーナー、会議室、事務ブース、 貸ロッカー、メールボックス、印刷作業室等

市民活動に触れるきっかけとなる講座やイベントの開催、市民活動の立ち上げや基盤づくりを支える相談業務、事務ブース等の提供、市民活動団体同士の協働のコーディネート等、第4次静岡市市民活動促進基本計画上の4つの柱に横断的に関係しており、静岡市における市民活動促進施策の担い手として計画の推進を図るうえで重要な位置を占めている。

市民活動センター R6年度実績

番町市民活動センター

●事務ブース利用団体 11団体／12ブース

●貸事務室利用団体 5団体／4室(入れ替えあり)

●会議室稼働率

※数値は%

会議室	R6.4	R6.5	R6.6	R6.7	R6.8	R6.9	R6.10	R6.11	R6.12	R7.1	R7.2	R7.3
大	56	68	66	57	46	61	70	69	59	70	74	60
中	65	55	66	62	57	70	65	69	62	61	67	72
小	42	35	53	49	38	53	45	38	49	49	43	35

清水市民活動センター

●事務ブース利用団体 6団体／10ブース

●会議室稼働率

※数値は%

会議室	R6.4	R6.5	R6.6	R6.7	R6.8	R6.9	R6.10	R6.11	R6.12	R7.1	R7.2	R7.3
第1	23	28	25	20	21	18	22	19	28	24	25	22
第2	2	10	5	7	0	2	5	7	3	13	13	7

市民活動センター：【事例】清水市民活動センター R6人材・団体育成講座

講座名	参加人数
事業報告書作成講座(動画配信)	19団体20名
プロから学ぶスマホ撮影講座	17名
市民活動の世代交代を考える	15名
Let'sちょこボラ	14名
決算書作成講座	7団体9名

Pick up

●市民活動の世代交代を考える

講座アンケート結果：有益度 100%

- ・多くの団体が課題と感じている世代交代についての講座を開催。
- ・団体内だけの問題としてとらえるのではなく他団体の活動や社会の動きを見ながら今後のあるべき形を考えていく、という提案に共感と安心の声が聞かれた。
- ・自団体でも同様の講座を開催したいという問い合わせも複数あるなど好評。

●プロから学ぶスマホ撮影講座

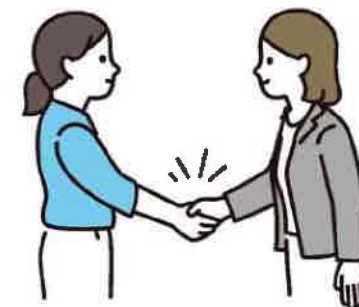
講座アンケート結果：有益度 100%

- ・スマホ撮影講座は受講希望者が多く、キャンセル待ちとなった。
- ・市民活動センターに来館したことがなかったという参加者も多く新規層へアプローチができた。

施策の柱4 つながる・変わる

市の取組:異なる組織や世代をつなぐ取組の支援

取組の方向性



(1)多様な主体の相互理解や協働の促進

あらゆる主体による多様な形での協働を実現し、様々な分野を横断し、市が全庁的な取組として協働への理解を進め、変化に対応できる仕組みづくりに取り組みます。

(2)活動を次世代につなげるための支援

市民活動を持続的なものとするため、世代間をつなげていく取組を進めていきます。

団体同士の新たな連携等のコーディネートや、異なる世代や組織の交流機会の創出を進めていきます。

想定される事業

- ・ 協働事業提案制度 【市民自治推進課】
- ・ 市民活動センターの運営（相談事業を通じた後継者育成支援） 【市民自治推進課】

施策の柱4 つながる・変わる

市の取組:異なる組織や世代をつなぐ取組の支援

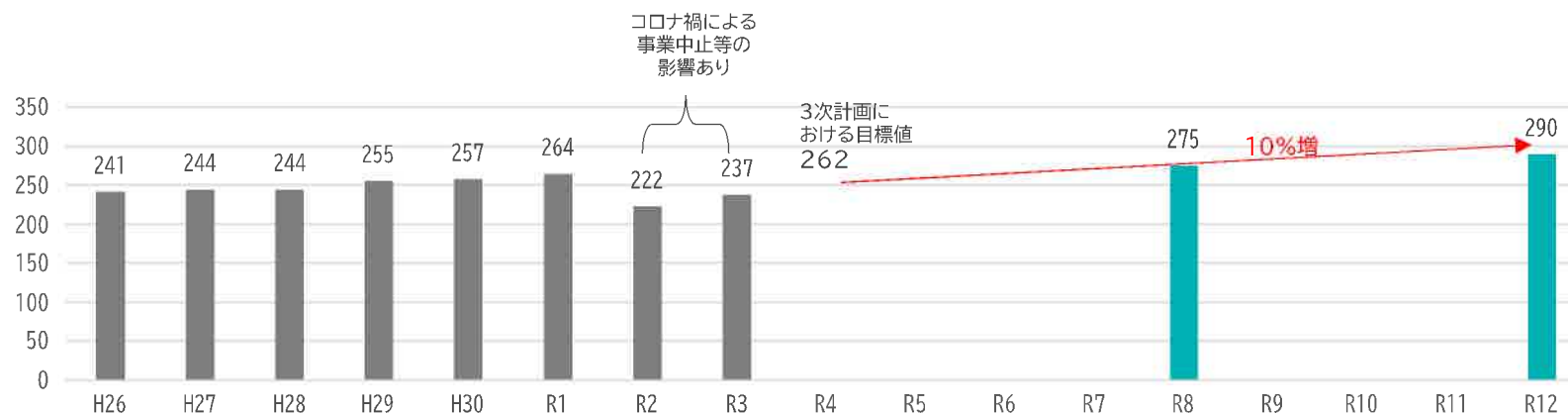
成果指標

指標名	現状(策定時)	中間目標(R8)	最終目標(R12)
市と市民活動団体との協働事業数	237 事業(R3)※	275 事業	290 事業

(成果指標の設定理由)

施策の柱4「つながる・変わる」で表される関係性は「行政と他の団体」だけではなく、市民活動団体同士や企業等との関係性を含むものですが、多様な主体の相互理解や協働を促すためには、まずは行政(市)が市民活動団体をはじめとする様々な主体との協働を一層進めていくことが重要であると考え、その状況を表すものの一つとして第3次計画に引き続き「市と市民活動団体との協働事業数」を指標としました。

R12年度の目標値の設定にあたり、現状値であるR3年度の事業実績は新型コロナウイルス感染症による中止、延期等による影響を受けていることから、第3次計画におけるR4年度の目標値である262事業を基準に、10%増の290事業としました。



施策の柱4 つながる・変わる

市の取組:異なる組織や世代をつなぐ取組の支援

成果指標

指標名	現状(策定時)	中間目標(R8)	最終目標(R12)
市と市民活動団体との協働事業数	237 事業(R3)※ ※新型コロナウイルス感染症の影響あり	275 事業	290 事業



成果:市と市民活動団体との協働事業数(統計R3～R7)

指標名	R3(策定時)	R4	R5	R6	R7
市と市民活動団体との協働事業数	237事業※	277事業	282事業	276事業	266事業

協働パイロット事業

市民活動団体と静岡市が役割を分担し、社会的課題の解決に取り組む試行的な協働事業

【評価の基本的視点】

- ①施策全体が相互に連動し、市民活動を支えられているか
(立ち上げ・継続・発展の各段階、つながりの形成を含む)
- ②市民活動への支援は、実態に即した効果的なものとなっているか

協働パイロット事業をきっかけに、本格実施に至った事例

【団体名】

特定非営利活動法人しずおか環境教育研究会（協働担当課：環境共生課、子ども園課ほか）

【事業名】

「若手先生もできる！地域人材と連携してできる！もういちど幼児教育現場に自然体験を。」

【事業概要】

「幼児期における環境教育」に対するノウハウを持った人材が不足しているという社会的課題を解決するため、市内幼稚園・保育園・こども園等に対し環境教育の実践による人材育成と動画発信を実施し、幼児教育現場で自然体験教育スキルを向上させる事業。



当該事業は、令和4年度に新規事業として採択され、令和5年度にも継続して事業実施した。静岡市協働パイロット事業として実施した2年間において成果が認められたことから、令和6年度から環境共生課が予算化し、引き続き事業を実施している。

協働パイロット事業 令和7年度は、新規事業2件、継続事業3件を採択

No.	新規・継続	事業名	団体名	協働担当課
1	新規事業	きみの居場所プロジェクト	静岡の未来を拓く会	教育総務課 学校教育課
2	新規事業	聴き合い、受け止め合い、伝え合う。垣根を越えた対話で、市民がつながり続ける事業	つながりあいず	地域包括ケア推進課
3	継続事業	新たな活動が生まれる大谷・小鹿周辺地区協創プラットフォームの構築	特定非営利活動法人 E S U N E	大谷・小鹿まちづくり推進課
4	継続事業	静岡グリーンラボ～みどりを活かす人材の活躍の仕組みづくり～	一般社団法人 グリーンパークあさはた	緑地政策課
5	継続事業	放任竹林を活用したレッパーくんのもぐもぐサポートプロジェクト	特定非営利活動法人 B A S S p l u s	日本平動物園 環境共生課

Pick up

	特定非営利活動法人 ESUNE	一般社団法人 グリーンパークあさはた	特定非営利活動法人 BASSplus
事業概要	大谷・小鹿地区において、多様な主体がまちづくりに参画できる活動機会を創出し、当該地区の協創プラットフォームを構築することを目的とする。	みどり（公園・緑地）の活用を促進する人材が活躍するための仕組みを整えることで、みどりを活かしたまちづくりを推進することを目的とする。	放任竹林の整備の過程で発生する竹の枝葉を日本平動物園で飼育されているレッサーパンダの飼料として活用する一連の体制を構築することで、竹の経済的価値創出を通じた竹林整備団体の持続可能な活動の支援及び動物の飼料調達に要するコストの削減を目的とする。
今後について	- ESUNEの取組が足掛かりとなり、大学としても地域との関りが大切ということで研究費を投入し、取組を拡大させていく予定。 - 国の補助プログラムの補助金を活用し、ESUNE+大学とで取組を継続予定。 - ゼミや授業で地域のフィールドワークを取り入れ、大学と地域とのコミュニティづくりを拡大させていく。	- 緑地政策課がR8予算を確保。 - 人材育成プログラム研修として実施。 - 内容はパイロットで作成したプログラムを実施+その後の公園活動を支援していくようなもの。 - 本事業で生み出された人は、プログラム研修のアドバイザーとして活用を予定。	本事業についての案内（啓発）について、環境共生課が実施している竹林団体への講座や破砕機貸出時に引き続き実施し、参画する関係者の確保に協力予定。

市民活動センター

【事例】番町市民活動センター

事業継承に関する相談

【評価の基本的視点】

①施策全体が相互に連動し、市民活動を支えられているか

(立ち上げ・継続・発展の各段階、つながりの形成を含む)

②市民活動への支援は、実態に即した効果的なものとなっているか

任意団体「共学葵の会」

海外から静岡に来ていた外国人に日本語を学んでもらえるよう、元教師など10数人で活動をしている団体

【相談内容】

- ・ 会員の高齢化に危機感を抱き、若いメンバーを誘ったが継続できなかった。
- ・ 残っているメンバーで話し合いの機会を持つにも4人しか集まらず、解散する予定。
- ・ 活動については「共学」という名前の通り、一方的な指導ではなく交流し合い、学び合う良い場が創れていた。
- ・ 解散にあたり、集まっていた会費の残金を同じような志で活動している若い世代の団体があれば寄付をしたい。

【センター対応】

- ・ 同じ志の団体の活動費として寄付したいという気持ちを受け止め、紹介できる団体を提案。
- ・ “若い世代の”というお話から、「共学」を大切にしている任意団体「グローバルにほんご」に声掛けをし、仲介。
- ・ その後、団体同士の面談を経て、実際の「グローバルにほんご」の活動を見学する機会も取り持った。

任意団体「グローバルにほんご」へ活動費の寄付が成立した

協働に関する職員向け研修

対面研修

【評価の基本的視点】

- ①施策全体が相互に連動し、市民活動を支えられているか
(立ち上げ・継続・発展の各段階、つながりの形成を含む)
- ②市民活動への支援は、実態に即した効果的なものとなっているか

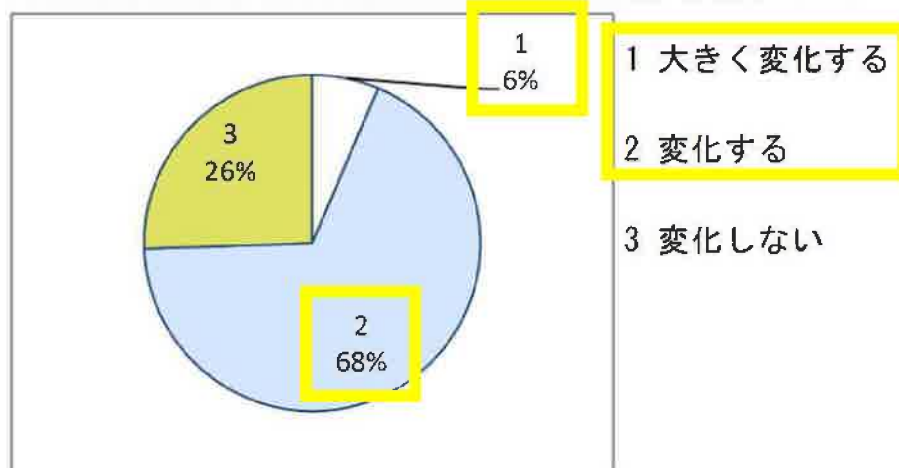
【目 的】 市民目線での協働の企画提案する力や市民協働のまちづくりの感覚・視点を身につけ、日頃の業務で市民協働を実践できるようになる。

【対象者】 現場の中心となる中堅職員層 【講 師】 山本 由加 氏

【内 容】 静岡市における市民協働について / 「協働で静岡をもっといい街に」レクチャー&ワーク

【研修後アンケート】

今回の研修受講により自らの行動や知識レベルが変化すると思いますか



【PICK UPコメント】

- ・協働を行うためには、「市民の生の声を聴く耳を育てる」、「市民からの要望や提案については、できない（制度がない）と初めからあきらめてしまうことをしない」、「協働をするにあたっては、一つの機関ではなく、様々な機関（関係機関）を巻き込んでいくこと」が必要と感じた。
- ・一人の市民に対し様々な関係部署と連携して支援に当たることが多いため、「協働」というテーマと普段の業務の親和性が高く勉強になった。相手を主体性をもった当事者として巻き込んでいくこと、座組みを考えること、団子のくしの役割を果たすことなど、行政としての協働における役割を理解することができた。
- ・民間側の立場でのお話を聞くことができたのが有意義だった。昨年度まで住民等の皆様とお話をしながら事業を進めていく機会が多くあった。委託契約等は発生してはいませんが、互いにまちの未来に期待感を持って行動するという意味では協働だったのだろうと思う。今後もそのような機会に巡り合ったとき、前向きに協働を進めていきたい。

協働に関する職員向け研修

オンライン研修 市民協働・市民参画研修2025

【目 的】 市民協働・市民参画に関する知識を習得し、本市市民協働・市民参画の一層の促進を図ることを目的とする。

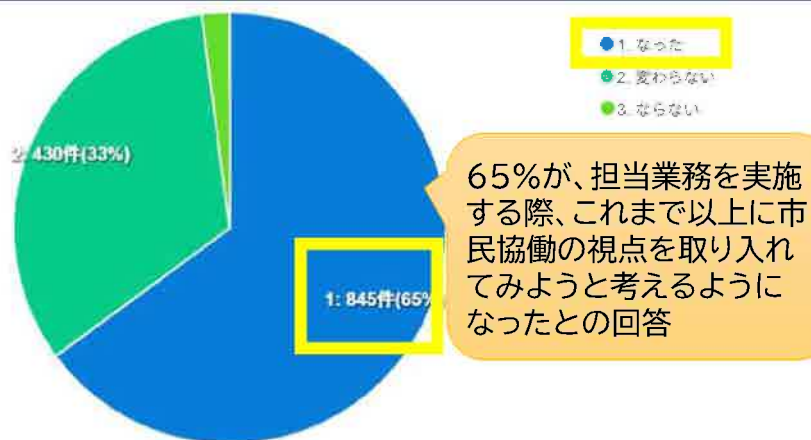
【対象者】 3,299人（106課）

- ・協働事業の実績調査において、実績報告があった所属
- ・令和7年度の静岡市協働パイロット事業採択団体との協働実施所属
- ・令和4年度から令和7年度までに市民参画手続又は意見公募手続を実施した所属

【内 容】 市民協働と市民参画の関係／市民協働の概要・実施／市民参画手続の概要・実施

【研修後アンケート】

今回の研修を受講したことで、担当業務を実施する際、これまで以上に市民協働の視点を取り入れてみようと考えようになりましたか



【PICK UPコメント】

- ・市民参画に関する内容は、初めてだったので、新鮮味があった。
- ・元気に活動できる市民活動とともに、静岡市も元気になれるよう考えたい。
- ・自治会の人手不足に何か市民協働による打開策がないか考えることはある。市内全域に及ぶ課題でもあり、このような課題と向き合う団体があるのか気になる。
- ・協働パイロット事業で作成された、「マンション防災」の冊子を手にして、協働について興味を持った。
- ・知らなかったことがたくさんあった。職員の立場としてではないが、市民の立場からもまちづくりに直接参加する機会を得られそうなので参加したい。

施策の柱3・4の中間見直しの方向性

検討事項(例)

【評価の基本的視点】

- ①施策全体が相互に連動し、市民活動を支えられているか
(立ち上げ・継続・発展の各段階、つながりの形成を含む)
- ②市民活動への支援は、実態に即した効果的なものとなっているか

●成果指標数値の見直し検討

●評価の基本的視点を基に検討

①施策の連動性の確認

- ・市民活動の段階ごとに支えられているか
- ・支援は「点」ではなく「流れ」になっているか
- ・市の施策の中で不足している段階はあるか
- ・つながりを生む仕組みは十分か …など



②支援内容の妥当性の確認

- ・実態に即した効果的な支援となっているか
- ・団体の課題（人材・資金・世代交代等）に対応できているか
- ・制度は使いやすく活用されているか …など



③今後強化すべき支援の方向性

- ・柱3・柱4の見直しポイント …など



答申の構成

1 はじめに

基本計画策定の経緯等について記載

2 市民活動促進基本計画について

静岡市総合計画における位置付けの変化等について記載

3 静岡市の市民活動を取り巻く現状

確認した市民活動の現状について記載

4 基本計画の進行管理

成果指標に対する進捗状況について記載

5 中間評価における基本的視点

見直しの視点について記載

6 中間評価内容

4・5を踏まえた評価について記載

7 委員からのコメント

8 資料 委員名簿、会議開催概要、諮問書(写し)、条例



1 はじめに

- ・静岡市では、「静岡市市民活動の促進に関する条例」に基づき、市民活動の促進に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、市民活動促進基本計画を策定してきた。
- ・近年は、人口減少や少子高齢化、地域コミュニティの担い手不足、価値観の多様化、デジタル化の進展など、市民活動を取り巻く環境が大きく変化している。また、社会課題の複雑化・複合化により、行政のみで対応することが困難な課題も増加している。
- ・このような状況の中で、市民活動は地域社会の持続的な発展を支える基盤として、その重要性を増している。

2 市民活動促進基本計画について

- ・基本計画は、第4次静岡市総合計画の個別計画として、市民活動の促進に関する施策を体系的かつ計画的に推進する役割を担っていた。
- ・第5次静岡市総合計画では、将来の目指す姿から逆算して施策を構築するバックキャスト型の考え方と、多様な主体による「共働・共創」が重要な考え方として位置付けられている。
- ・市民活動は、この共働・共創を支える基盤であり、地域の活力向上や社会課題の解決に重要な役割を果たしている。

3 静岡市の市民活動を取り巻く現状

- ・市民活動団体では、担い手不足や高齢化、活動資金の確保、組織運営の継続などの課題が見られる一方で、新たな社会課題に対応する活動や企業・大学等との連携も広がっている。
- ・また、単発的なボランティア活動やオンラインによる参加など、多様な参加形態が生まれている。
- ・市民活動センターについては、第9期静岡市市民活動促進協議会の提言を踏まえた見直しが進められている。今後は、相談機能や情報発信機能に加え、多様な主体をつなぐコーディネート機能や中間支援機能の充実が重要である。
- ・また、若い世代や新たな活動主体との接点づくりも重要な課題である。

4 基本計画の進行管理

【成果指標一覧及び実績値表を掲載】

- ・各施策については概ね計画どおり推進されていることが確認された。
- ・一方で、社会環境や市民活動を取り巻く状況の変化により、当初の目標値と実績値との間に乖離が見られる指標も確認された。
- ・また、一部の成果指標については、実績の推移や施策効果を踏まえた目標設定の見直しが必要であると考えられる。

5 中間評価における基本的視点

- ・本協議会は、中間評価における基本的視点を次のとおり設定した。
 1. 施策全体が相互に連動し、市民活動を支えられているか。
(立ち上げ・継続・発展の各段階、つながりの形成を含む)
 2. 市民活動への支援は、実態に即した効果的なものとなっているか。
- ・さらに、成果指標による量的評価だけでなく、活動成果や連携効果などを把握する質的評価も重要であると考ええる。

6 中間評価内容

計画全体の評価

- ・本協議会は、成果指標の見直しに加え、第5次静岡市総合計画との整合を図る観点から、基本計画の構成や進行管理の在り方についても検討を進める必要があると考える。今後は、市民活動そのものの促進だけでなく、市民活動が地域や社会にもたらす成果をより明確に示していくことが求められる。
- ・そのため、次期計画の策定や今後の見直しに当たっては、バックカスティング型の考え方を踏まえた施策及び成果指標の構築について検討することが望ましい。
- ・また、「共働・共創」の視点を計画全体に反映するとともに、多様な分野との連携を意識した計画運用を期待する。

6 中間評価内容

施策の柱1 触れる・楽しむ

- ・市民活動への関心や理解を深める機会の提供について一定の成果が認められる。
 - ・一方で、情報収集手段の変化を踏まえ、若年層や現役世代への情報発信の充実が求められる。
 - ・成果指標については、実績値及び社会環境の変化を踏まえた目標値への見直しが適当である。
- ⇒目標値の変更内容について記載

施策の柱2 動き出す

- ・市民活動への参加機会の提供や活動開始支援について一定の成果が認められる。
 - ・一方で、参加者が継続的な活動へ発展するための仕組みづくりには課題が見られる。
 - ・成果指標については、実績値及び今後の活動環境を踏まえた目標値への見直しが適当である。
- ⇒目標値の変更内容について記載

6 中間評価内容

施策の柱3 創る・実現する

- ・市民活動団体の活動基盤強化に一定の成果が認められる。
 - ・一方で、人材確保や組織運営、活動資金の確保などの課題が見られる。
 - ・今後は活動の継続支援に加え、社会的成果の創出につながる支援が重要である。
 - ・成果指標については、実績値及び社会情勢の変化を踏まえた目標値への見直しが適当である。
- ⇒目標値の変更内容について記載

施策の柱4 つながる・変わる

- ・多様な主体による連携・協働の推進は、「共働・共創」の実現に向けた重要な取組である。
 - ・市民活動センターには、中間支援機能やコーディネート機能の発揮が期待される。
 - ・また、企業や教育機関等との連携促進や活動の継承に向けた取組も重要である。
 - ・成果指標については、実績値を踏まえた目標値への見直しに加え、協働による成果や社会的効果を把握する評価手法についても検討することが望ましい。
- ⇒目標値の変更内容について記載